

2 調査結果の概要

2-1 同郷諸団体の活動実態

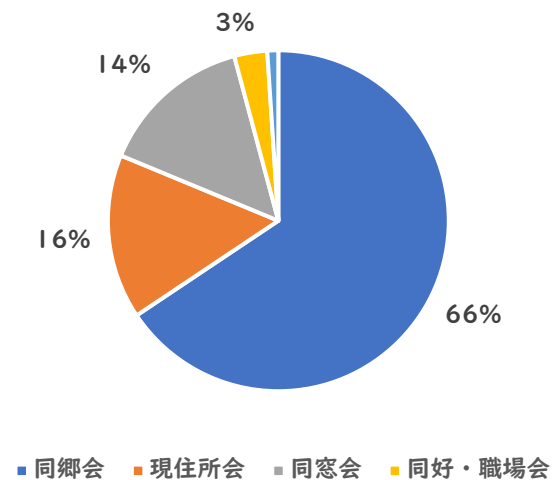
2-1-1 同郷諸団体の形態や名称等

(1) 団体の形態（代表者票 問 2、SA）

回答者の約 65%が、同郷会と答えた。

図.表 2-1-1-(1) 同郷諸団体の形態（n=96）

団体の形態		
	度数	割合（%）
同郷会	63	65.6
現住所会	15	15.6
同窓会	14	14.6
同好・職場会	3	3.1
その他	1	1.0
合計	96	100.0



なお、形態の詳細は下記のとおり。

会員の出身地別に旧行政市町村や現市町村を単位とする「同郷会」	(例) 薩摩 A 市会、大島 B 村会、奄美 C 会、D 島会
会員の現住所をもとにした「現住所会」	(例) 東京区県人会、鹿児島県〇〇〇県人会
卒業学校別の「同窓会」	(例) 大隅高校同窓会、〇〇小学校同窓会
同好・趣味・勤務経験等を縁とした「同好・職場会」	(例) 〇〇株式会社鹿児島勤務者の会 鹿児島へ旅行をする会
その他	(例) 鹿児島学生寮の会

(2) 名称と会員数（代表者票 問3、記述）（代表者票 問4、NA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の名称と加入者数の一覧は下記のとおり。

表 2-1-1-(2) 同郷諸団体の名称と加入者数

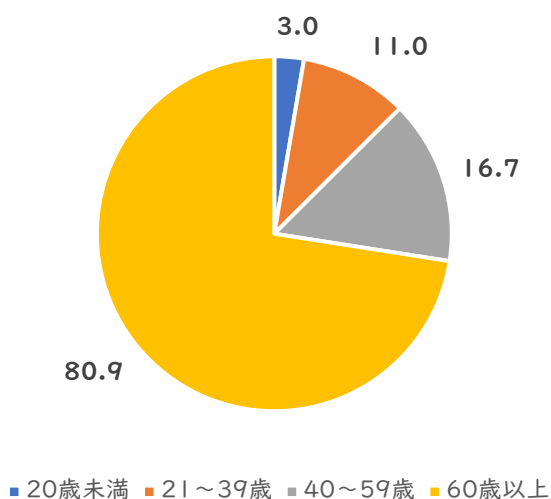
同郷諸団体の名称と加入者数			
関東ふるさと出水会	1,277	関東鹿屋会	2,000
関東伊佐会	500	関東地区吾平会	250
東京みぞべ会	140	中部中種子会	250
鹿児島高専同窓会関東支部	438	関東霧島会	150
和光・鹿児島会の会	100	東海地区阿久根会	100
鹿児島市関東交友会	150	東海笠沙会	170
鹿児島上京協同組合	6	関西穎娃会	600
関東天城町会	250	関西園霧島市ふるさと会	350
錦江町 大根占・田代踊りたい♪	35	南さつま市関東ふるさと会	400
関東曾於市の会	500	関東徳州会	2,000
関東垂水会	380	永吉を語る会	130
東京龍郷会	400	関東知覧会	700
金久中8回卒同窓会	35	関東知覧中央会38部	40
福岡玉龍同窓会	100	関東入来会	276
関東串良会	200	関東さつま会	600
出水望郷の会	180	鹿児島市関東郷土会	400
種子島北部九州会	70	関東松元会	240
関東阿久根会	300	近畿薩摩川内会	400
甲南高校同窓会 熊本支部	300	関東吉利会	150
中部奄美会	550	東京鹿島会	100
東海鹿商同窓会	40	関東地区湧水会	300
卯辰会	45	東京東郷会	200
昭和42年佐々木小学校卒業古希同窓会	37	関東志布志市ふるさと会	150
指宿関西連合	10	関西種子島あかおぎ会	350
札幌三州会	60	関西輝北会	230
関東大崎町会	130	大正区鹿児島県人会	20
近畿大崎町会	400	関西串良会	450
茨城県鹿児島県人会	600	東海地区南九州市ふるさと会	100
関東曾於市の会	490	福岡湧水会	70
関西徳州会	10,000	沖縄瀬戸内会	80
所沢市鹿児島県人会	250	沖縄奄美連合会	500
ソテツ会	48	関東地区高江・久見崎会	150
東京鶴丸会	5,000	関東鹿児島吹上会	300
千葉鹿児島県人会	960	関西阿久根会	200
関東南大隅会	200	関西三笠会	200
関東ながしま会	650	関東桜島会	49
東京野田会	250	東海伊佐会	70
東京世田谷鹿児島県人会	650	関西伊佐の会	200
東京城東鹿児島県人会	20	近畿南種子会	300
東京世田谷鹿児島県人会	80	種子島トンミーの会	300
鹿児島県川内商工高等学校同窓会関東支部	1,000	東京世田谷鹿児島県人会	500
関東阿久根会	800	関西いちき串木野会	500
関東かいもん会	250	関東種子島会	600
近畿鹿児島県人会	100	東京薩摩川内会	1,100
京都鹿児島県人会	200	東京樋脇会	280
関西鹿屋会	120	出水工業高等学校関東同窓会	500
関西さつま会	300	公益社団法人三州倶楽部	465
関西伊佐の会	200	わかみこ会	350
近畿指宿会	500	関東伊佐会	370
関西串良会	470	伊佐農林高校同窓会関東支部	200
東京野田会	140	鹿実千葉よかにせ会	52
関東屋久島永田会	220	福岡鹿児島県人会（福岡南州会）	200
合計		104団体	46,418

(3) 同郷諸団体の年齢構成（代表者票 問 5、NA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の年齢構成の平均は次のとおり。算出は、有効回答した 94 団体の回答を単純平均した。このため、割合の和が 100.0%を超えている。なお、無回答は平均に加えていない。

図.表 2-1-1-(3) 同郷諸団体の年齢構成(n=94)

同郷諸団体の年齢構成	
	割合（％）
20歳未満	3.0
21～39歳	11.0
40～59歳	16.7
60歳以上	80.9



2-1-2 同郷諸団体内の連絡

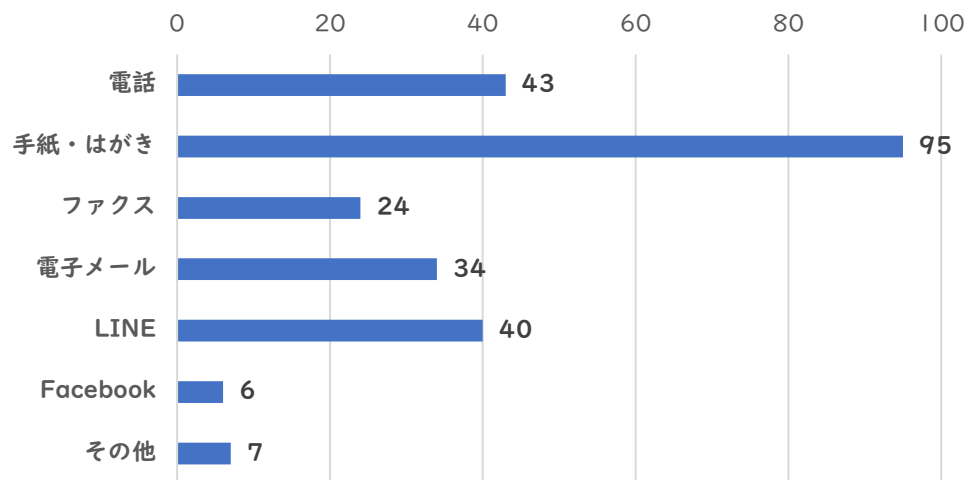
(1) 加入者への連絡手段（代表者票 問 6、MA）

回答者が代表を務める同郷諸団体加入者への連絡手段では、「手紙・はがき」が最も多かった。

その他には、「ホームページ」や「会報誌」との記載があった。

図.表 2-1-2-(1) 同郷諸団体内の加入者への連絡手段(n=249)

団体内の連絡手段		
	度数	割合 (%)
電話	43	17.3
手紙・はがき	95	38.2
ファクス	24	9.6
電子メール	34	13.7
LINE	40	16.1
Facebook	6	2.4
その他	7	2.8
合計	249	100.0



その他の記載は次のとおり。

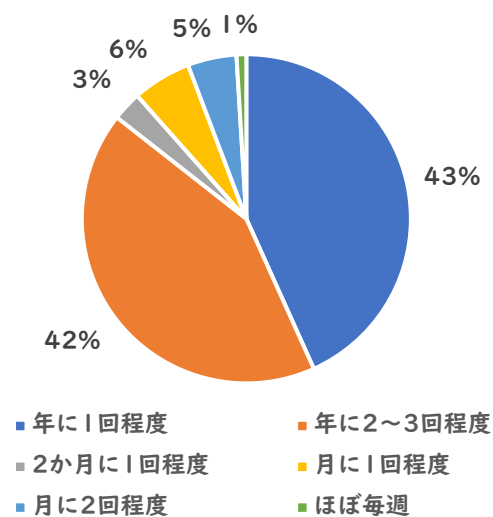
	度数		度数
ホームページ	3	会報誌	1
		メール便	1
		案内冊子	1

(2) 会員への連絡頻度（代表者票 問 7、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体加入者への連絡頻度は、「年に1回程度」「年に2～3回程度」が4割超だった。

図.表 2-1-2-(2) 同郷諸団体内の会員への連絡の頻度（n=104）

連絡頻度		
	度数	割合（%）
年に1回程度	45	43.3
年に2～3回程度	44	42.3
2か月に1回程度	3	2.9
月に1回程度	6	5.8
月に2回程度	5	4.8
ほぼ毎週	1	1.0
合計	104	100.0



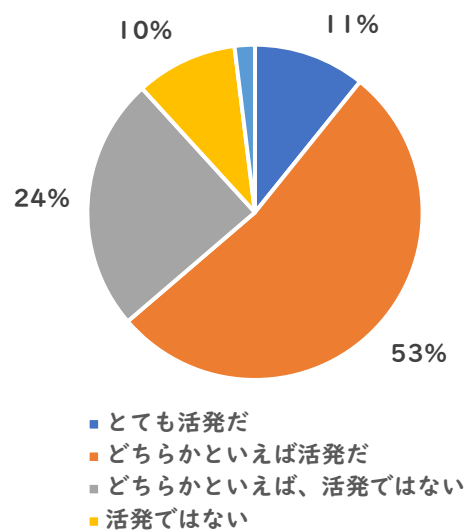
2-1-3 同郷諸団体内の活動

(1) 団体の活動度（代表者票 問17、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の活動度は、「どちらかといえば活発だ」が5割を超え、「どちらかといえば活発でない」との回答が続いた。

図.表 2-1-3-(1) 団体の活動度(n=102)

団体の活動度		
	度数	割合 (%)
とても活発だ	11	10.8
どちらかといえば活発だ	54	52.9
どちらかといえば、活発ではない	25	24.5
活発ではない	10	9.8
わからない	2	2.0
合計	102	100.0

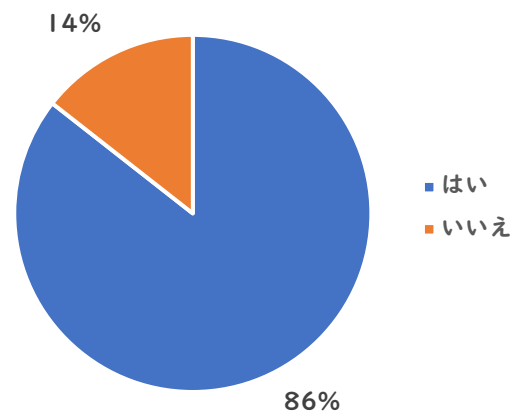


(2) 定期役員会の開催有無（代表者票 問 8、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の定期役員会の開催有無は、「定期的に開催している」が8割だった。

図.表 2-1-3-(2) 同郷諸団体の定期役員会の開催有無（n=104）

定期役員会の有無		
	度数	割合（％）
はい	89	85.6
いいえ	15	14.4
合計	104	100.0

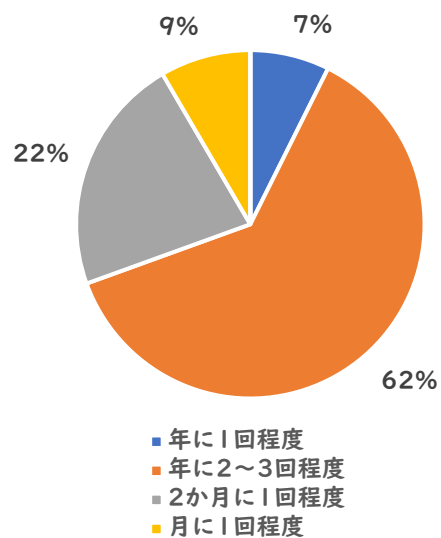


(3) 定期役員会の開催頻度（代表者票 問 9、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の定期役員会の開催頻度は、「年に2～3回程度」が6割で、「年に2～3回程度」が続いた。

図.表 2-1-3-(3) 同郷諸団体の定期役員会の開催頻度（n=95）

定期役員会の開催頻度		
	度数	割合（％）
年に1回程度	7	7.4
年に2～3回程度	59	62.1
2か月に1回程度	21	22.1
月に1回程度	8	8.4
月に2回程度	0	0.0
ほぼ毎週	0	0.0
合計	95	100.0

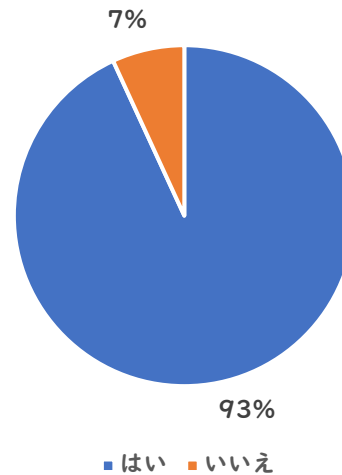


(4) 加入者向けの会合の開催有無（代表者票 問10、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の加入者向けの会合の開催有無は、「定期的に開催している」が9割に上った。

図.表 2-1-3-(4) 同郷諸団体の会員向け会合の開催有無（n=102）

会員向け会合の開催有無		
	度数	割合（％）
はい	95	93.1
いいえ	7	6.9
合計	102	100.0

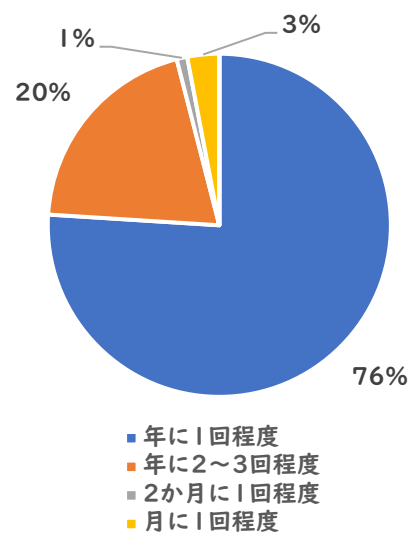


(5) 加入者向けの会合の開催頻度（代表者票 問11、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の加入者向けの会合の開催頻度は、「年に1回程度」が7割超だった。

図.表 2-1-3-(5) 同郷諸団体の会員向け会合の開催頻度（n=100）

会員向け会合の開催頻度		
	度数	割合（％）
年に1回程度	76	76.0
年に2～3回程度	20	20.0
2か月に1回程度	1	1.0
月に1回程度	3	3.0
月に2回程度	0	0.0
ほぼ毎週	0	0.0
合計	100	100.0

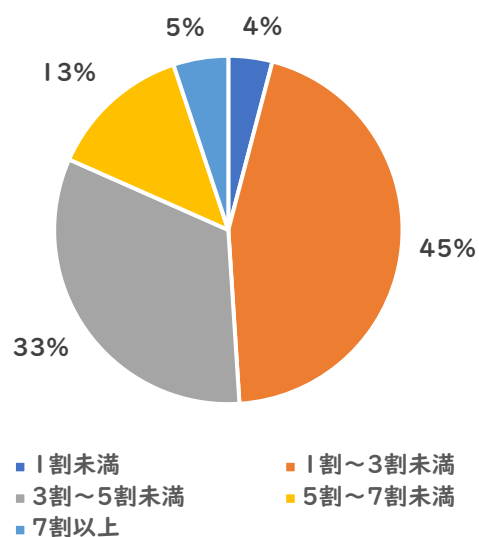


(6) 加入者向けの会合の参加率（代表者票 問 12、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体の加入者向け会合の参加率は、「1割～3割未満」が約45%、「3割～5割未満」が約32%だった。

図.表 2-1-3-(6) 同郷諸団体の会員向け会合の参加率（n=98）

会員向け会合の参加率		
	度数	割合（%）
1割未満	4	4.1
1割～3割未満	44	44.9
3割～5割未満	32	32.7
5割～7割未満	13	13.3
7割以上	5	5.1
合計	98	100



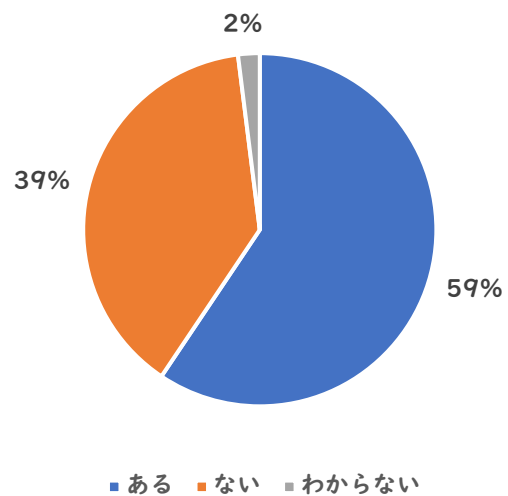
2-1-4 団体として参加する鹿児島ゆかりのイベント

(1) 住まいの地域や近隣で開催若しくは参加するイベントの有無（代表者票 問13、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体で、住まいの地域や近隣で開催若しくは参加するイベントの有無は、「ある」が約6割だった。

図.表 2-1-4-(1) 住まいの地域や近隣で開催若しくは参加するイベントの有無
(n=101)

住まいの地域や近隣で開催もしくは参加するイベントの有無		
	度数	割合(%)
ある	60	59.4
ない	39	38.6
わからない	2	2.0
合計	101	100.0



(2) 住まいの地域や近隣で参加若しくは開催するイベントの名称等（代表者票 問14、自由記述）

「渋谷・鹿児島おはら祭」「渋谷おはら祭り」といった同じ意味をなすと考えられる回答については、受託者においてまとめて表に記載した。なお、類似しているが、同一のものと判断しにくい回答については原文のまま記載した。

表 2-1-4-(2) 住まいの地域や近隣で開催若しくは参加するイベント（n=62）

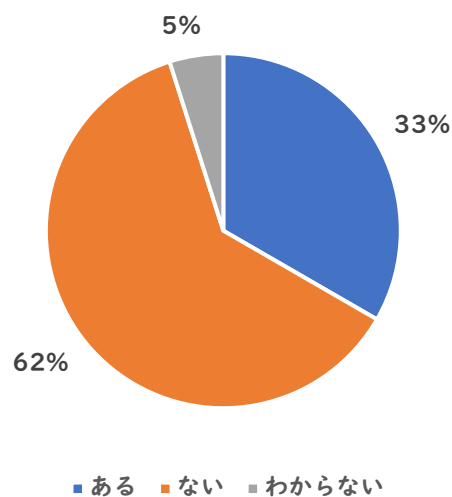
	度数		度数
渋谷・鹿児島おはら祭	33	関西地区への旅行	1
関西かごしまファンデー	15	市主催マルシェ	1
関西かごしま焼酎まつり	7	かいもん夏祭り	1
関東鹿児島連合会	8	指宿なのはなキャンペーン	1
ふるさと巡りツアー	4	秋例大祭	1
治水神社例祭	3	新年会	1
総会	2	忘年会	1
新年互礼会	2	名種子会	1
鹿児島県人会	2	新年会親睦会	
鹿児島のタベ	1	種子島屋久島連合会新年会	1
鹿児島おはら祭	1	鹿児島市政報告会への出席	1
関西鹿児島県人会総連合会の総会	1	鹿児島市関東郷土会のイベント	1
東京樺協会	1	三州倶楽部講演会	1
東京薩摩川内会	1	種子島ふるさと祭り	1
埼玉鹿児島県人会	1	種子会	1
所沢鹿児島県人会	1	屋久島を愛する会	1
きみまるショー	1	各ふるさと会議	1
4月花見会	1	田原坂慰霊祭	1
関西かごしまゴルフコンペ	1	東郷神社春大祭	1
世田谷区民まつり	1	東郷神社誕生祭	1
おはら祭事務局が募集するイベント	1	全国鹿児島県人会	1
垂水市観光物産紹介	1	西郷神社大祭	1
垂水商工会イベント	1	県人会納涼祭	1
全国県人会物産イベント	1	夏の納涼祭	1
山川港祭り	1		

(3) 鹿児島に帰省・訪問して参加するイベントの有無（代表者票 問15、SA）

回答者が代表を務める同郷諸団体で、鹿児島に帰省若しくは訪問して開催若しくは参加するイベントの有無は、「ない」が6割だった。

図.表 2-1-4-(3) 鹿児島に帰省・訪問して開催若しくは参加するイベントの有無
(n=102)

鹿児島に帰省もしくは訪問して開催もしくは参加するイベントの有無		
	度数	割合 (%)
ある	34	33.3
ない	63	61.8
わからない	5	4.9
合計	102	100.0



(4) 鹿児島へ帰省・訪問して開催もしくは参加するイベントの名称等（代表者票 問16、自由記述）

「鹿児島おはら祭」「鹿児島市でのおはら祭り」といった同じ意味をなすと考えられる回答については、受託者においてまとめ、表に記載した。なお、類似しているが、同一のものと判断しにくい回答については原文のまま記載した。

表 2-1-4-(4) 鹿児島を帰省・訪問して開催若しくは参加するイベント（n=35）

	度数		度数
おはら祭（鹿児島市で開催）	16	旧輝北町の各イベント（輝北畜産祭り、輝北グリーンハイキング、ほたるの里、ふるさと祭り）	1
全国鹿児島県人会総会	2	奄美で開催される全国奄美会のゴルフコンペ	1
同総会	2	出水市で各年6月に行われる「あゆとり祭」	1
弥五郎どん祭り	2	みどこい祭り・うに祭り	1
伊佐市ふるさと農村まつり	1	体育祭	1
みなみたね鹿児島県人会	1	川内ハンヤ	1
南州神社例大祭	1	種子島ふるさと交流大会（ゴルフ大会・交流会）	1
垂水市道の駅イベント	1	種子島鉄砲まつり	1
垂水市賀詞交歓会	1	ふるさと交流会（鮎獲り会）	1
故郷(奄美大島各島へ)里帰りツアー等	1	ふるさとウォーク	1

また、

- ・ 地元の皆さんとわかみこ会の会員が一堂に会し、ふるさとの活性化を目指し、話し合いを繰り返しています。近々、NPO団体を立ち上げ実質的な活動を開始する予定です。
- ・ 毎年3月9月に鹿児島の会員・市民向けに「鹿児島懇談会」と称して講演会、交流会を開催。

との記載もあった。

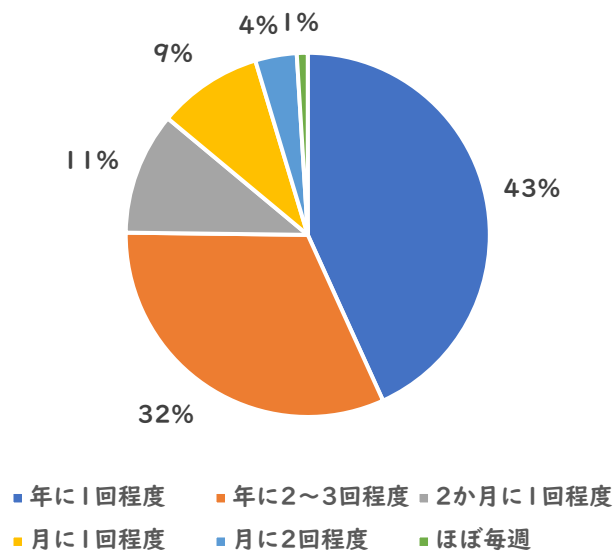
2-2 同郷諸団体加入者の鹿児島県との現在の関わり方

2-2-1 同郷諸団体への活動参加（加入者票 問5, SA）

回答者の同郷諸団体の活動への参加頻度は、「年に1回程度」が4割、「年に2～3回程度」が3割を占めた。

図.表 2-2-1 同郷諸団体加入者の活動への参加頻度（n=516）

同郷諸団体加入者の活動への参加頻度		
	度数	割合（％）
年に1回程度	223	43.2
年に2～3回程度	165	32.0
2か月に1回程度	56	10.9
月に1回程度	48	9.3
月に2回程度	19	3.7
ほぼ毎週	5	1.0
合計	516	100.0



2-2-2 鹿児島県との現在の関わり方

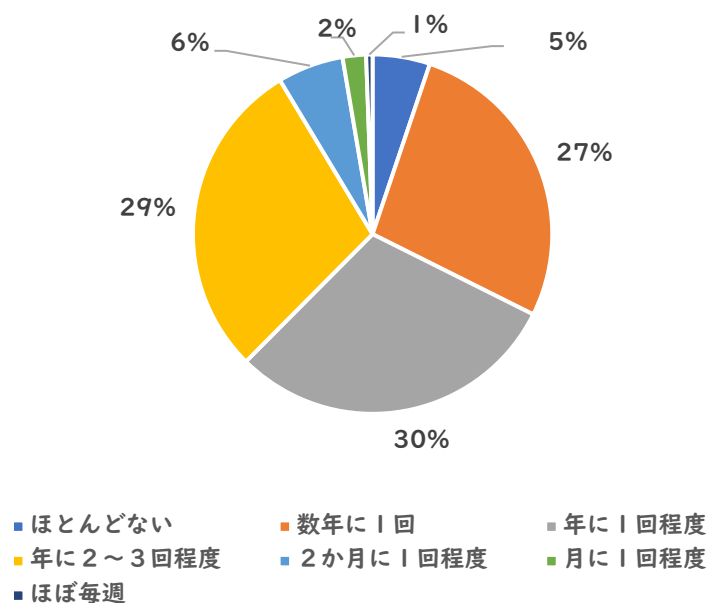
2-2-2-1 同郷諸団体加入者の鹿児島県への訪問

(1) 現在の帰省や旅行の頻度（加入者票 問 6、SA）

回答者の鹿児島県への訪問頻度は、「年に1回程度」「年に2～3回程度」「数年に1回」がそれぞれ約3割だった。

図.表 2-2-2-1-(1) 同郷諸団体加入者の鹿児島県への訪問頻度（n=522）

鹿児島県への訪問頻度		
	度数	割合（％）
ほとんどない	27	5.2
数年に1回	142	27.2
年に1回程度	157	30.1
年に2～3回程度	151	28.9
2か月に1回程度	31	5.9
月に1回程度	11	2.1
ほぼ毎週	3	0.6
合計	522	100.0



(2) 旅行や帰省の理由（加入者票 問 7、自由記述）

鹿児島県に帰省や旅行をする、若しくはしたいと思う理由や背景を聞いた質問への回答全文を、ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析

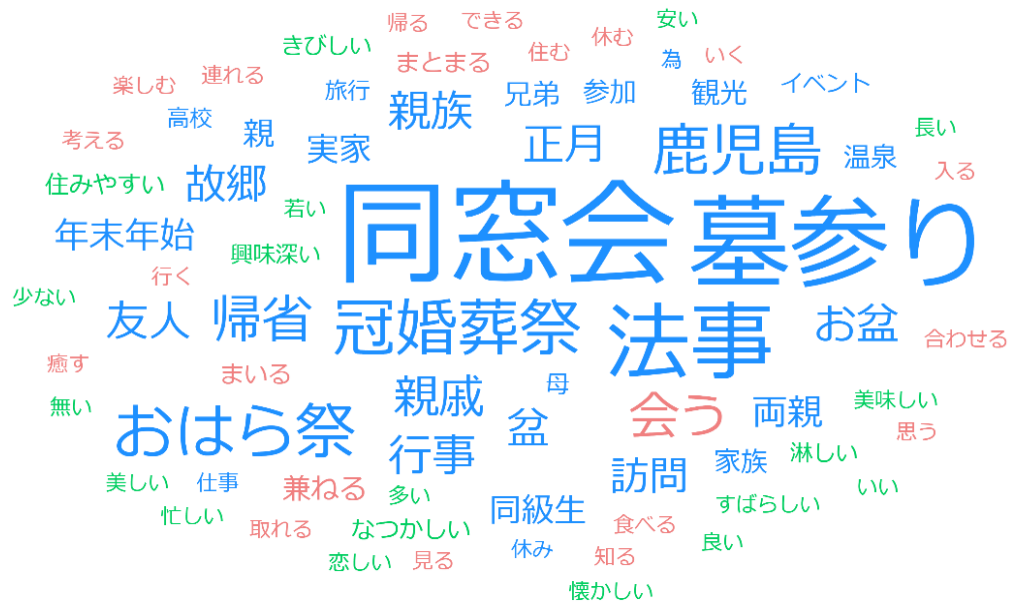
（ <https://textmining.userlocal.jp/> ）を行った。

表 2-2-2-1-(2) 同郷諸団体加入者の鹿児島県へ帰省・旅行の理由（n=467）

鹿児島県への帰省や旅行をする、したいと思うとき（自由記述、動詞・形容詞）			
単語	出現回数	単語	出現回数
会う	61	美味しい	5
行く	18	良い	5
思う	14	多い	4
帰る	7	なつかしい	3
入る	6	無い	3
食べる	6	興味深い	2
考える	5	いい	2
兼ねる	4	住みやすい	1
休む	4	淋しい	1
知る	4	きびしい	1
できる	4	すばらしい	1
まとまる	3	恋しい	1
まいる	3	美しい	1
連れる	3	若い	1
住む	3	懐かしい	1
合わせる	3	安い	1
癒す	3	忙しい	1
取れる	3	少ない	1
楽しむ	3	長い	1
いく	3		
見る	3		

鹿児島県への帰省や旅行をする、したいと思うとき（自由記述、名詞）			
単語	出現回数	単語	出現回数
同窓会	78	友達	9
墓参り	63	ふるさと	8
法事	61	墓参	7
鹿児島	36	同窓	6
帰省	33	出席	6
友人	33	再会	6
親	28	連休	6
実家	25	親せき	5
参加	25	懇親	5
親戚	24	長期	5
正月	23	交流	5
冠婚葬祭	22	介護	5
お盆	22	墓	5
家族	20	用事	5
行事	15	関係	5
両親	14	父母	4
イベント	14	母校	4
年末年始	13	休暇	4
同級生	13	孫	4
温泉	13	様子	4
仕事	13	中学	4
兄弟	12	開催	4
母	12	地元	4
旅行	12	確認	4
親族	11	情報	4
訪問	11	子供	4
観光	11	夏	4
おはら祭	10		
盆	10		
故郷	10		
高校	10		
為	10		
休み	10		

全文を可視化した画像は次のとおり。なお文字の大きさは、重要度を示すスコア順を示しており、単語同士の近さは出現傾向の類似性を示している。



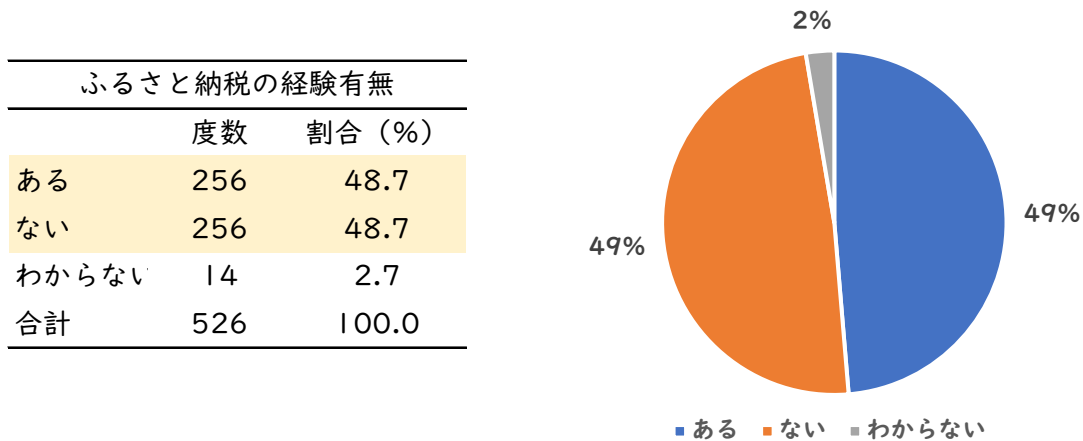
2-2-2-2 ふるさと納税

2-2-2-2-1 鹿児島県や県内市町村へのふるさと納税

(1) 同郷諸団体加入者のふるさと納税の経験有無（加入者票 問8、SA）

回答者の鹿児島県（市町村含む）へのふるさと納税経験は、「ある」「ない」が半数ずつで拮抗した。

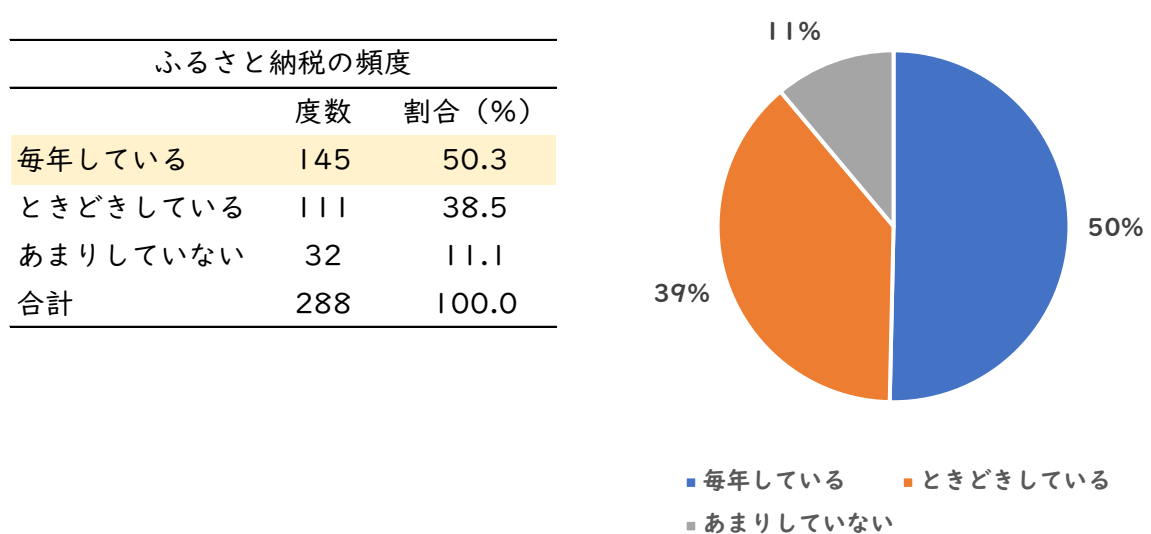
図.表 2-2-2-2-1-(1) 同郷諸団体加入者の鹿児島県へのふるさと納税の経験（n=526）



(2) ふるさと納税の頻度（加入者票 問9、SA）

ふるさと納税経験があると答えた回答者の納税頻度は、毎年しているが半数を占めた。

図.表 2-2-2-2-1-(2) 同郷諸団体加入者の鹿児島県へのふるさと納税頻度（n=288）



(3) ふるさと納税の頻度と年代の関係（加入者票 問 9・問 15、SA）

ふるさと納税経験が「ある」と答えた回答者の納税頻度と年代との関係は次のとおり。

図.表 2-2-2-2-1-(3) 同郷諸団体加入者の鹿児島県へのふるさと納税頻度と年代のクロス表（n=244）

同郷諸団体加入者の年代とふるさと納税の頻度のクロス表				
	毎年している	ときどきしている	あまりしてない	合計
20代	3	3	0	6
	2.4%	3.3%	0.0%	2.5%
30代	4	5	0	9
	3.1%	5.4%	0.0%	3.7%
40代	6	6	1	13
	4.7%	6.5%	4.0%	5.3%
50代	27	15	2	44
	21.3%	16.3%	8.0%	18.0%
60代	35	16	6	57
	27.6%	17.4%	24.0%	23.4%
70代	42	34	12	88
	33.1%	37.0%	48.0%	36.1%
80代	10	12	2	24
	7.9%	13.0%	8.0%	9.8%
90代	0	1	2	3
	0.0%	1.1%	8.0%	1.2%
合計	127	92	25	244
	100%	100%	100%	100%

上段が度数、下段は割合。

2-3 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県との現在の関わり方

2-3-1 鹿児島県との現在の関わり方

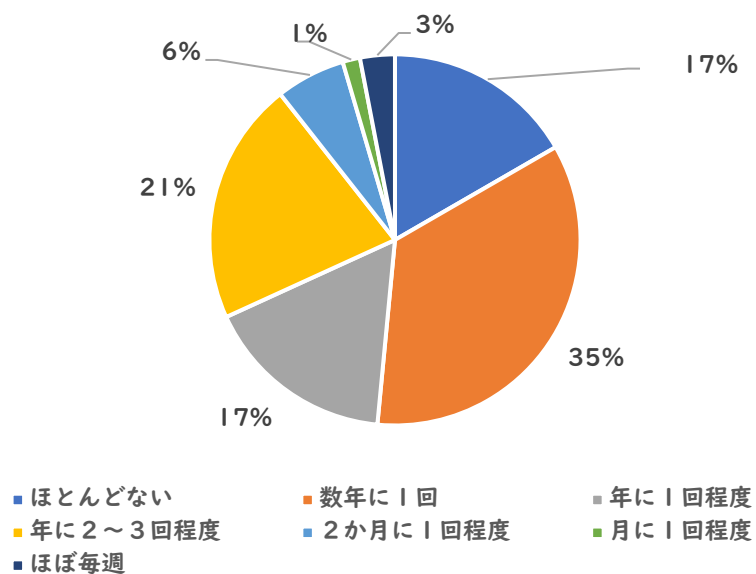
2-3-1-1 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県への訪問

(1) 現在の帰省や旅行の頻度（加入者家族票 問4、SA）

回答者の鹿児島県への訪問頻度は、「数年に1回」が約3割で最も多く、「年に2～3回」が続いた。

図.表 2-3-1-1-(1) 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県への訪問頻度（n=66）

鹿児島県への訪問頻度		
	度数	割合（％）
ほとんどない	11	16.7
数年に1回	23	34.8
年に1回程度	11	16.7
年に2～3回程度	14	21.2
2か月に1回程度	4	6.1
月に1回程度	1	1.5
ほぼ毎週	2	3.0
合計	66	100.0



(2) 旅行や帰省の理由（加入者家族票 問 5、自由記述）

鹿児島県に帰省や旅行をする、若しくはしたいと思う理由や背景を聞いた質問への回答全文を、ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析
（<https://textmining.userlocal.jp/>）を行った。

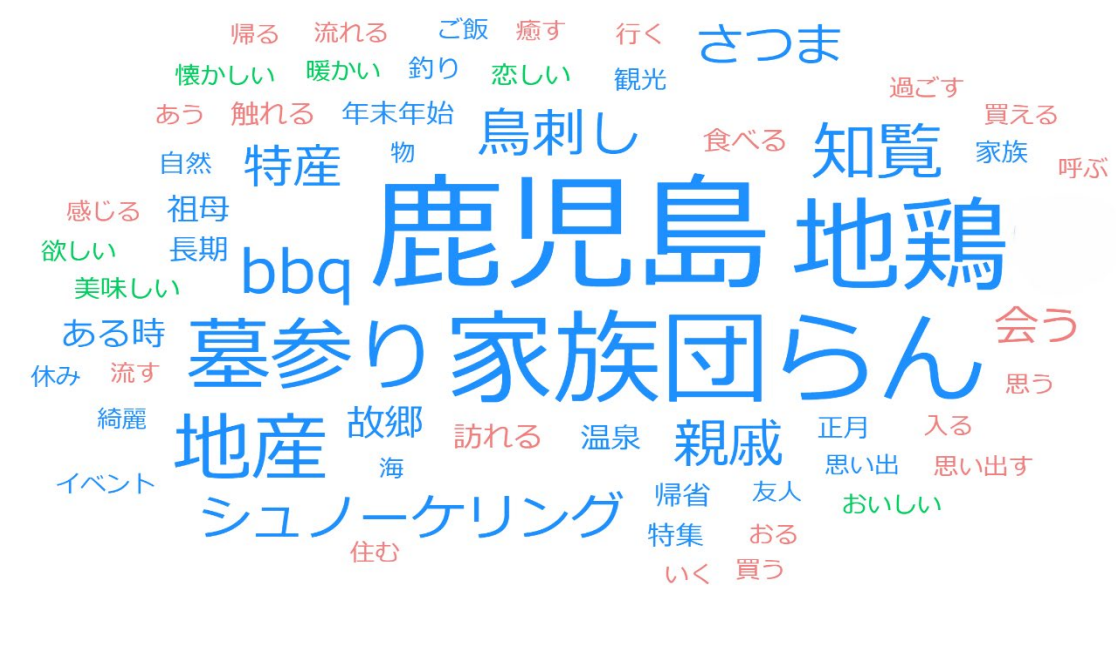
表 2-3-1-1-(2) 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県へ帰省・旅行の理由（n=55）

鹿児島県への帰省や旅行をする、したいと思うとき（自由記述、動詞・形容詞）			
単語	出現回数	単語	出現回数
会う	10	美味しい	4
食べる	8	恋しい	1
行く	7	暖かい	1
思う	5	おいしい	1
触れる	2	懐かしい	1
入る	2	欲しい	1
訪れる	1		
あう	1		
過ごす	1		
住む	1		
流す	1		
癒す	1		
買える	1		
流れる	1		
思い出す	1		
呼ぶ	1		
感じる	1		
おる	1		
帰る	1		
買う	1		
言う	1		

鹿児島県への帰省や旅行をする、したいと思うとき（自由記述、名詞）

単語	出現回数	単語	出現回数
鹿児島	9		
親戚	6	故郷	2
墓参り	4	祖母	2
温泉	4	長期	2
家族	4	年末年始	2
ご飯	3	帰省	2
		特集	2
		観光	2
		正月	2
		釣り	2
		自然	2
		海	2
		思い出	2
		友人	2
		綺麗	2
		休み	2
		イベント	2

全文を可視化した画像は次のとおり。なお文字の大きさは、重要度を示すスコア順を示しており、単語同士の近さは出現傾向の類似性を示している。



2-3-1-2 ふるさと納税

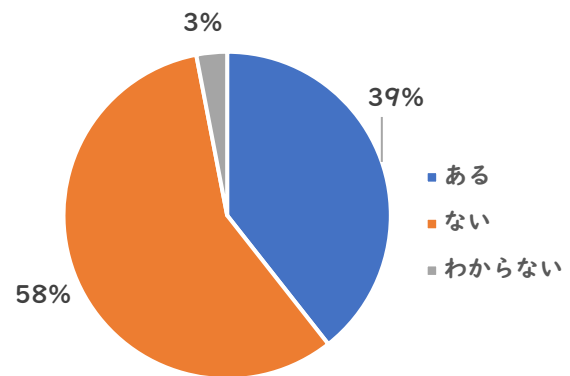
2-3-1-2-1 鹿児島県や県内市町村へのふるさと納税

(1) 同郷諸団体加入者家族のふるさと納税の経験有無（加入者票 問 6、SA）

回答者の鹿児島県（市町村含む）へのふるさと納税経験は、「ない」が半数を超えた。

図.表 2-3-1-2-1- (1) 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県へのふるさと納税の経験
(n=66)

ふるさと納税の経験有無		
	度数	割合 (%)
ある	26	39.4
ない	38	57.6
わからない	2	3.0
合計	66	100.0

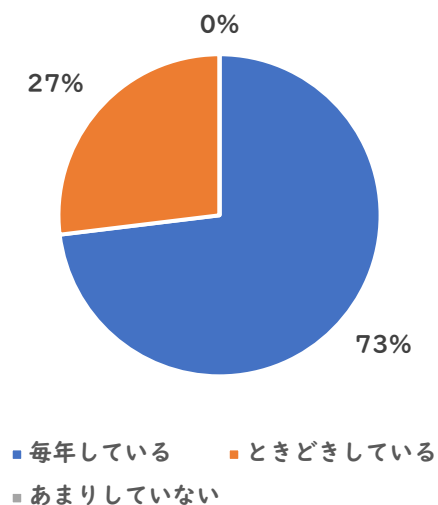


(2) ふるさと納税の頻度（加入者票家族 問 7、SA）

ふるさと納税経験があると答えた回答者の納税頻度は、毎年しているが7割超だった。

図.表 2-3-1-2-1- (2) 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県へのふるさと納税頻度
(n=26)

ふるさと納税の頻度		
	度数	割合 (%)
毎年している	19	73.1
ときどきしている	7	26.9
あまりしていない	0	0.0
合計	26	100.0



(3) ふるさと納税の頻度と年代の関係（加入者票 問 9・問 15、SA）

ふるさと納税経験があると答えた回答者の納税頻度と年代との関係は次のとおり。

表 2-3-1-2-1- (3) 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県へのふるさと納税頻度と年代のクロス表 (n=26)

同郷諸団体加入者家族の年代とふるさと納税の頻度のクロス表					
		毎年している	ときどきしている	あまりしていない	合計
10代	度数	1	0	0	1
	割合	5.3%	0.0%	0.0%	3.8%
20代	度数	1	2	0	3
	割合	5.3%	28.6%	0.0%	11.5%
30代	度数	8	2	0	10
	割合	42.1%	28.6%	0.0%	38.5%
40代	度数	2	1	0	3
	割合	10.5%	14.3%	0.0%	11.5%
50代	度数	5	1	0	6
	割合	26.3%	14.3%	0.0%	23.1%
60代	度数	2	0	0	2
	割合	10.5%	0.0%	0.0%	7.7%
70代	度数	0	1	0	1
	割合	0.0%	14.3%	0.0%	3.8%
80代	度数	0	0	0	0
	割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	度数	19	7	0	26
	割合	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

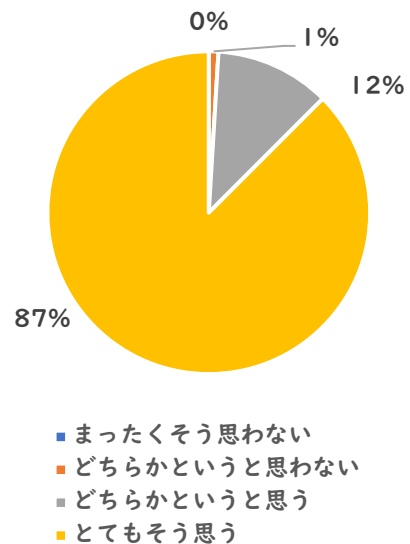
2-4 同郷諸団体代表者の鹿児島県への想い

2-4-1 鹿児島県の活性化希望度（代表者票 問18-①、SA）

回答者の鹿児島県の活性化希望度は、「とてもそう思う」が8割を超えた。

図.表 2-4-1 同郷諸団体代表者の活性化希望度（n=104）

代表者の活性化希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	0	0.0
どちらかというと思わない	1	1.0
どちらかというと思う	12	11.5
とてもそう思う	91	87.5
合計	104	100.0

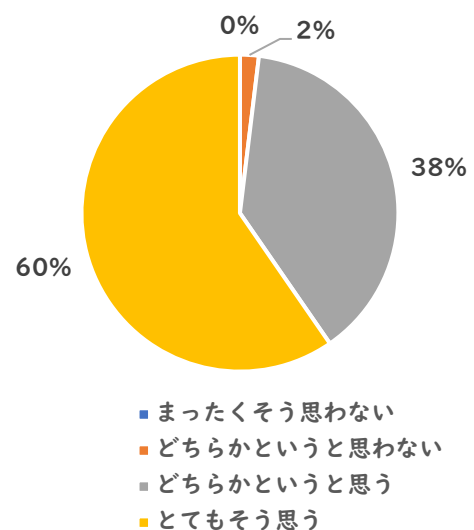


2-4-2 鹿児島県の活性化貢献希望度（代表者票 問18-③、SA）

回答者の鹿児島県の活性化貢献希望度は、とてもそう思うが約6割だった。

図.表 2-4-2 同郷諸団体代表者の活性化貢献希望度（n=104）

代表者の活性化貢献希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	0	0.0
どちらかというと思わない	2	1.9
どちらかというと思う	40	38.5
とてもそう思う	62	59.6
合計	104	100.0



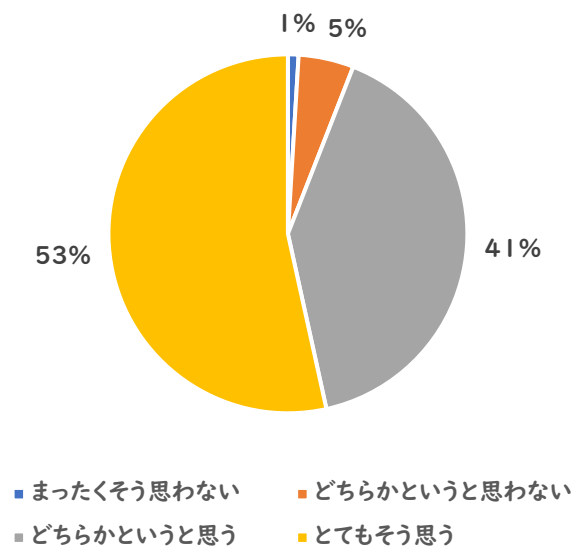
2-5 同郷諸団体加入者の鹿児島県への想い

2-5-1 鹿児島県への帰省や旅行の希望度（加入者票 問10-①，SA）

回答者の鹿児島県への帰省・旅行の希望度は、「とてもそう思う」が5割を超えた。

図.表 2-5-1 同郷諸団体加入者の帰省や旅行の希望度（n=522）

帰省・旅行希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	5	1.0
どちらかというと思わない	26	5.0
どちらかというと思う	212	40.6
とてもそう思う	279	53.4
合計	522	100.0

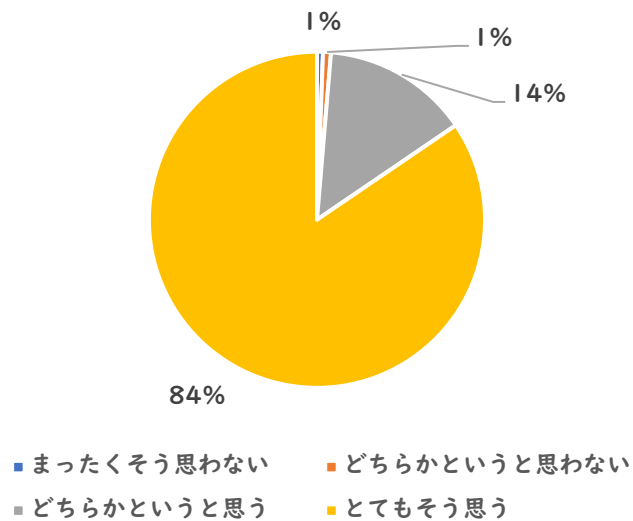


2-5-2 鹿児島県の活性化希望度（加入者票 問10-②，SA）

回答者の鹿児島県の活性化希望度は、「とてもそう思う」が8割を超えた。

図.表 2-5-2 同郷諸団体加入者の鹿児島県の活性化希望度（n=523）

鹿児島県の活性化希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	3	0.6
どちらかというと思わない	4	0.8
どちらかというと思う	74	14.1
とてもそう思う	442	84.5
合計	523	100.0

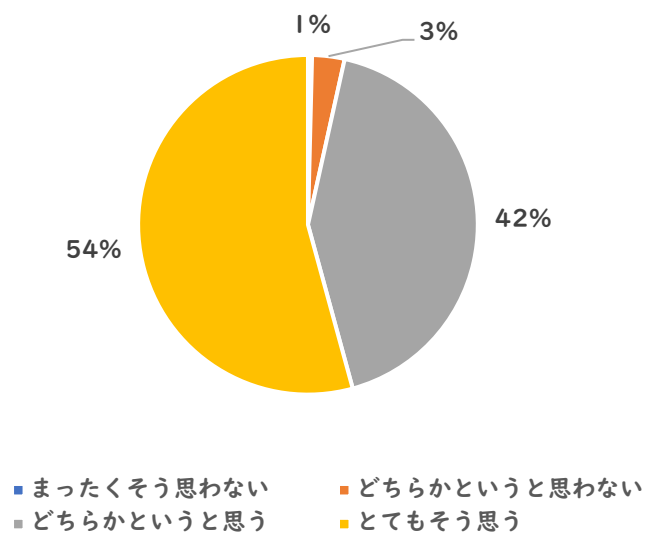


2-5-3 鹿児島県の活性化貢献希望度（加入者票 問10-③，SA）

回答者の鹿児島県の活性化への貢献希望度は、「とてもそう思う」が5割を超えた。

図.表 2-5-3 同郷諸団体加入者の鹿児島県への活性化貢献希望度（n=518）

鹿児島県の活性化貢献希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	2	0.4
どちらかというと思わない	16	3.1
どちらかというと思う	219	42.3
とてもそう思う	281	54.2
合計	518	100.0

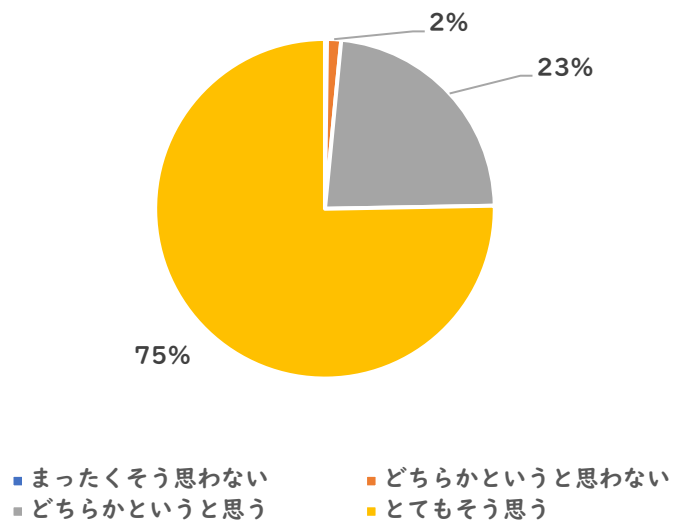


2-5-4 鹿児島県とのつながり希望度（加入者票 問10-④，SA）

回答者の鹿児島県とのつながり希望度は、「とてもそう思う」が約8割を占めた。

図.表 2-5-4 同郷諸団体加入者の鹿児島県とのつながり希望度（n=522）

つながり希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	1	0.2
どちらかというと思わない	7	1.3
どちらかというと思う	121	23.2
とてもそう思う	393	75.3
合計	522	100.0

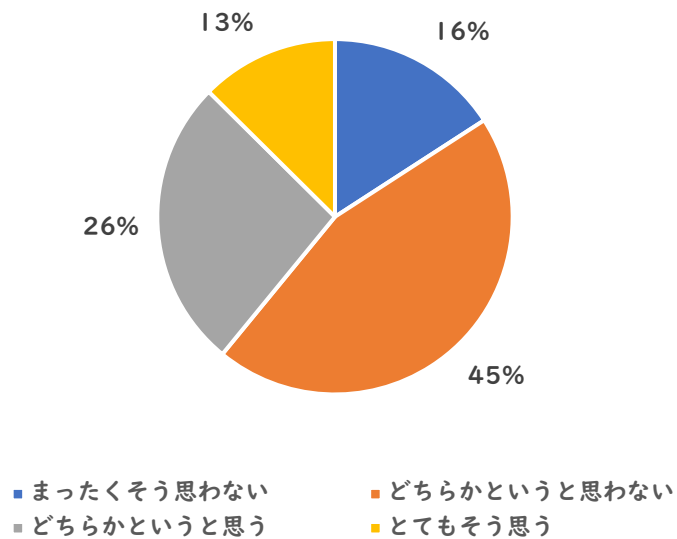


2-5-5 鹿児島県への移住・定住希望度（加入者票 問10-⑤，SA）

回答者の鹿児島県への移住・定住希望度は、「どちらかというと思わない」が4割超だった。

図.表 2-5-5 同郷諸団体加入者の鹿児島県への移住・定住希望度（n=517）

鹿児島県への移住・定住希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	82	15.9
どちらかというと思わない	233	45.1
どちらかというと思う	137	26.5
とてもそう思う	65	12.6
合計	517	100.0



回答者の鹿児島県への移住・定住希望度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

鹿児島県への移住・定住希望度と年代、性別のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	1 7.1%	1 4.3%	1 2.3%	15 16.3%	37 21.3%	55 15.9%
	どちらかとい うと思わない	9 64.3%	13 56.5%	19 44.2%	35 38.0%	82 47.1%	158 45.7%
	どちらかとい うと思う	4 28.6%	6 26.1%	12 27.9%	30 32.6%	44 25.3%	96 27.7%
	とてもそう 思う	0 0.0%	3 13.0%	11 25.6%	12 13.0%	11 6.3%	37 10.7%
	合計	14 100.0%	23 100.0%	43 100.0%	92 100.0%	174 100.0%	346 100.0%
女性	まったくそう 思わない	3 13.0%	0 0.0%	4 12.5%	5 11.9%	12 23.1%	24 15.4%
	どちらかとい うと思わない	12 52.2%	3 42.9%	6 18.8%	24 57.1%	22 42.3%	67 42.9%
	どちらかとい うと思う	1 4.3%	3 42.9%	10 31.3%	9 21.4%	14 26.9%	37 23.7%
	とてもそう 思う	7 30.4%	1 14.3%	12 37.5%	4 9.5%	4 7.7%	28 17.9%
	合計	23 100.0%	7 100.0%	32 100.0%	42 100.0%	52 100.0%	156 100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	4 10.8%	1 3.3%	5 6.7%	20 14.9%	49 21.7%	79 15.7%
	どちらかとい うと思わない	21 56.8%	16 53.3%	25 33.3%	59 44.0%	104 46.0%	225 44.8%
	どちらかとい うと思う	5 13.5%	9 30.0%	22 29.3%	39 29.1%	58 25.7%	133 26.5%
	とてもそう 思う	7 18.9%	4 13.3%	23 30.7%	16 11.9%	15 6.6%	65 12.9%
	合計	37 100.0%	30 100.0%	75 100.0%	134 100.0%	226 100.0%	502 100.0%

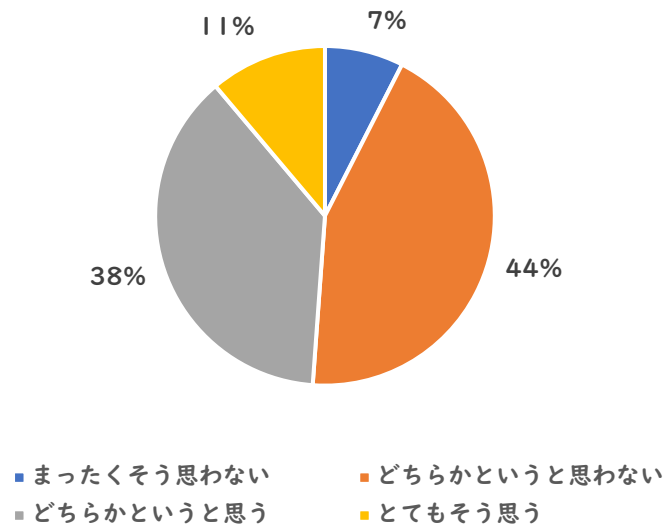
2-5-6 鹿児島県への移住・定住推薦度

(1) 家族など近親者への推薦度（加入者票 問10-⑥，SA）

回答者の近親者への移住・定住の推薦度は、「どちらかというと思わない」「どちらかというと思う」がそれぞれ約4割だった。

図.表 2-5-6-(1) 同郷諸団体加入者の近親者への鹿児島県移住・定住の推薦度
(n=520)

近親者への鹿児島県移住・定住の推薦度		
	度数	割合 (%)
まったくそう思わない	39	7.5
どちらかというと思わない	227	43.7
どちらかというと思う	196	37.7
とてもそう思う	58	11.2
合計	520	100.0



回答者の近親者に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

近親者に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	0	1	2	7	16	26
		0.0%	4.3%	4.7%	7.7%	9.1%	7.5%
	どちらかとい うと思わない	6	12	18	41	96	173
		42.9%	52.2%	41.9%	45.1%	54.9%	50.0%
	どちらかとい うと思う	4	8	16	38	52	118
		28.6%	34.8%	37.2%	41.8%	29.7%	34.1%
	とてもそう 思う	4	2	7	5	11	29
		28.6%	8.7%	16.3%	5.5%	6.3%	8.4%
	合計	14	23	43	91	175	346
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	まったくそう 思わない	0	1	3	2	5	11
		0.0%	12.5%	9.4%	4.8%	9.3%	6.9%
	どちらかとい うと思わない	2	0	6	16	24	48
		8.7%	0.0%	18.8%	38.1%	44.4%	30.2%
	どちらかとい うと思う	13	6	15	18	19	71
		56.5%	75.0%	46.9%	42.9%	35.2%	44.7%
	とてもそう 思う	8	1	8	6	6	29
		34.8%	12.5%	25.0%	14.3%	11.1%	18.2%
	合計	23	8	32	42	54	159
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	0	2	5	9	21	37
		0.0%	6.5%	6.7%	6.8%	9.2%	7.3%
	どちらかとい うと思わない	8	12	24	57	120	221
		21.6%	38.7%	32.0%	42.9%	52.4%	43.8%
	どちらかとい うと思う	17	14	31	56	71	189
		45.9%	45.2%	41.3%	42.1%	31.0%	37.4%
	とてもそう 思う	12	3	15	11	17	58
		32.4%	9.7%	20.0%	8.3%	7.4%	11.5%
	合計	37	31	75	133	229	505
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

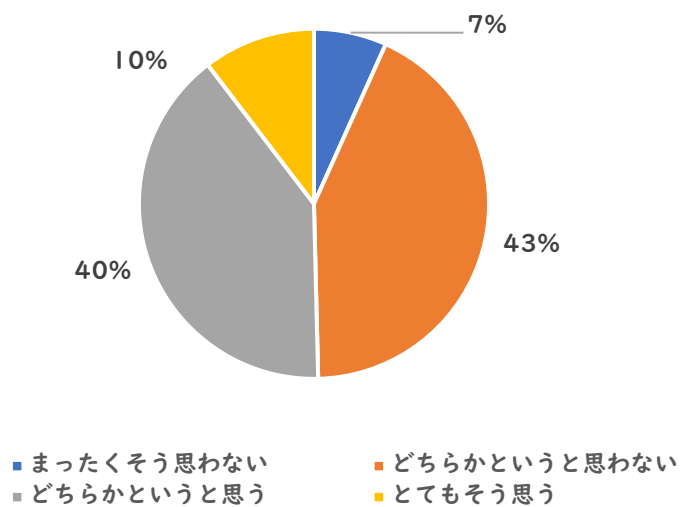
上段は度数、下段は割合。

(2) 知人・友人への推薦度（加入者票 問 10-⑦，SA）

回答者の知人・友人への移住・定住の推薦度は、「どちらかというと思わない」が4割を超え、「どちらかというと思う」が4割だった。

図.表 2-5-6-(2) 同郷諸団体加入者の知人・友人への鹿児島県移住・定住の推薦度
(n=520)

知人・友人への鹿児島県移住・定住の推薦度		
	度数	割合 (%)
まったくそう思わない	35	6.7
どちらかというと思わない	223	42.9
どちらかというと思う	208	40.0
とてもそう思う	54	10.4
合計	520	100.0



回答者の知人・友人に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

知人・友人に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	1	1	1	6	15	24
		7.1%	4.3%	2.3%	6.6%	8.6%	7.0%
	どちらかとい うと思わない	4	11	19	41	90	165
		28.6%	47.8%	44.2%	45.1%	51.7%	47.8%
	どちらかとい うと思う	5	9	16	38	56	124
		35.7%	39.1%	37.2%	41.8%	32.2%	35.9%
	とてもそう 思う	4	2	7	6	13	32
		28.6%	8.7%	16.3%	6.6%	7.5%	9.3%
合計	14	23	43	91	174	345	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	まったくそう 思わない	0	0	3	1	6	10
		0.0%	0.0%	9.4%	2.4%	10.9%	6.3%
	どちらかとい うと思わない	3	2	7	15	23	50
		13.0%	25.0%	21.9%	35.7%	41.8%	31.3%
	どちらかとい うと思う	13	5	16	21	23	78
		56.5%	62.5%	50.0%	50.0%	41.8%	48.8%
	とてもそう 思う	7	1	6	5	3	22
		30.4%	12.5%	18.8%	11.9%	5.5%	13.8%
合計	23	8	32	42	55	160	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	1	1	4	7	21	34
		2.7%	3.2%	5.3%	5.3%	9.2%	6.7%
	どちらかとい うと思わない	7	13	26	56	113	215
		18.9%	41.9%	34.7%	42.1%	49.3%	42.6%
	どちらかとい うと思う	18	14	32	59	79	202
		48.6%	45.2%	42.7%	44.4%	34.5%	40.0%
	とてもそう 思う	11	3	13	11	16	54
		29.7%	9.7%	17.3%	8.3%	7.0%	10.7%
合計	37	31	75	133	229	505	
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

上段は度数、下段は割合。

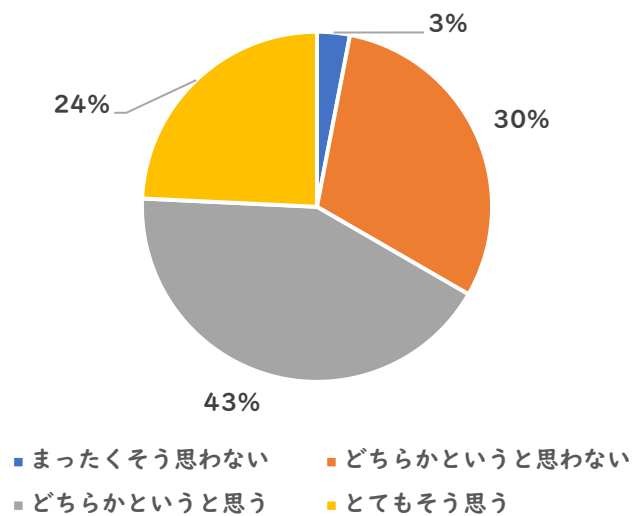
2-6 同郷諸団加入者家族の鹿児島県への想い

2-6-1 鹿児島県への帰省や旅行の希望度（加入者家族票 問8-①，SA）

回答者の鹿児島県への帰省・旅行の希望度は、「とてもそう思う」が5割を超えた。

図.表 2-6-1 同郷諸団加入者家族の帰省や旅行の希望度（n=66）

帰省・旅行希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	1	1.5
どちらかというと思わない	4	6.1
どちらかというと思う	23	34.8
とてもそう思う	38	57.6
合計	66	100.0

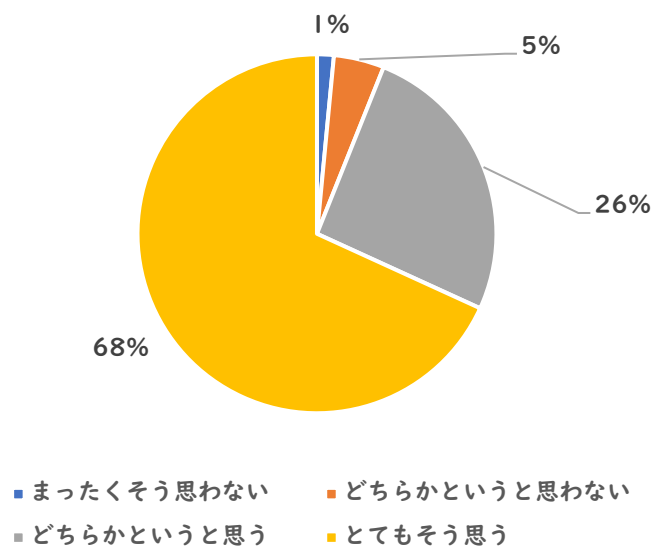


2-6-2 鹿児島県の活性化希望度（加入者家族票 問8-②，SA）

回答者の鹿児島県の活性化希望度は、「とてもそう思う」が約7割だった。

図.表 2-6-2 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県の活性化希望度（n=66）

鹿児島県の活性化希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	1	1.5
どちらかというと思わない	3	4.5
どちらかというと思う	17	25.8
とてもそう思う	45	68.2
合計	66	100.0

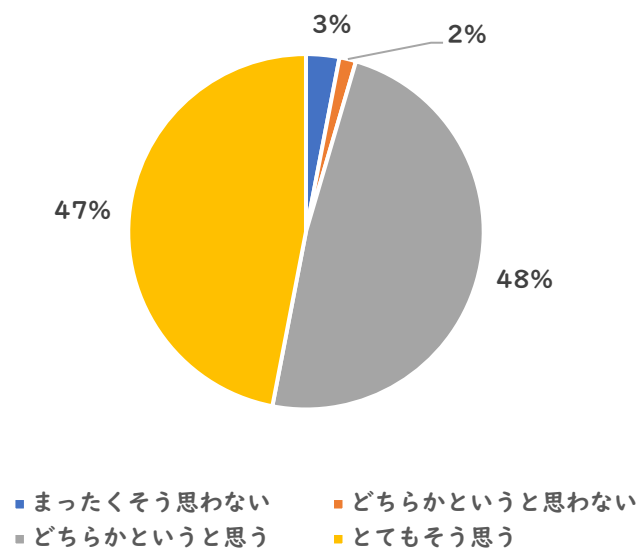


2-6-3 鹿児島県の活性化貢献希望度（加入者家族票 問8-③，SA）

回答者の鹿児島県の活性化への貢献希望度は、「どちらかという思う」が約5割だった。

図.表 2-6-3 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県への活性化貢献希望度（n=66）

鹿児島県の活性化貢献希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	2	3.0
どちらかというと思わない	1	1.5
どちらかというと思う	32	48.5
とてもそう思う	31	47.0
合計	66	100.0

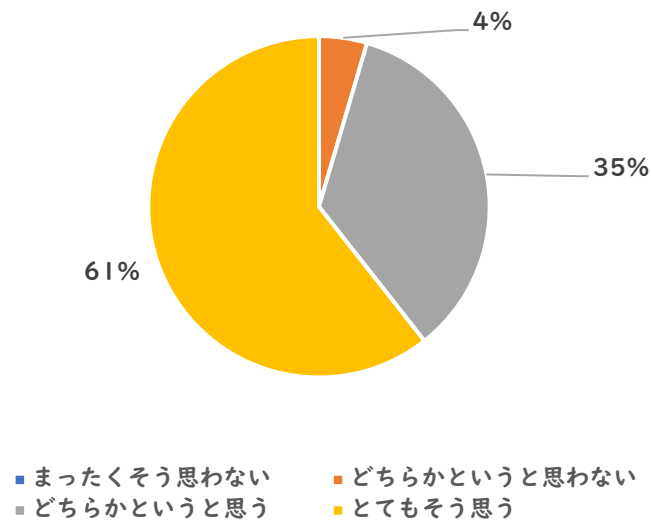


2-6-4 鹿児島県とのつながり希望度（加入者家族票 問8-④，SA）

回答者の鹿児島県とのつながり希望度は、「とてもそう思う」が約6割を占めた。

図.表 2-6-4 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県とのつながり希望度（n=66）

つながり希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	0	0.0
どちらかというと思わない	3	4.5
どちらかというと思う	23	34.8
とてもそう思う	40	60.6
合計	66	100.0

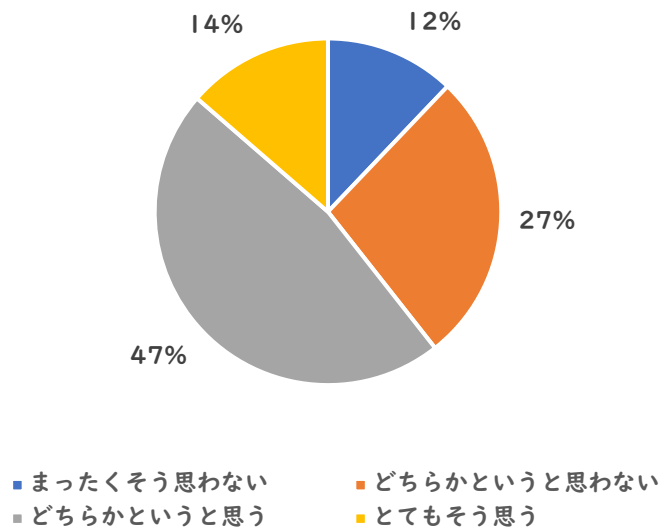


2-6-5 鹿児島県への移住・定住希望度（加入者家族票 問8-⑤，SA）

回答者の鹿児島県への移住・定住希望度は、「どちらかという思う」が5割弱だった。

図.表 2-6-5 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県への移住・定住希望度（n=66）

鹿児島県への移住・定住希望度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	8	12.1
どちらかというと思わない	18	27.3
どちらかというと思う	31	47.0
とてもそう思う	9	13.6
合計	66	100.0



回答者の鹿児島県への移住・定住希望度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

鹿児島県への移住・定住希望度 と年代、性別 のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	0	1	0	0	1	2
		0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	50.0%	10.0%
	どちらかとい うと思わない	3	1	2	0	1	7
		60.0%	20.0%	33.3%	0.0%	50.0%	35.0%
	どちらかとい うと思う	1	3	1	2	0	7
		20.0%	60.0%	16.7%	100.0%	0.0%	35.0%
とてもそう 思う	1	0	3	0	0	4	
	20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	20.0%	
合計		5	5	6	2	2	20
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	まったくそう 思わない	1	3	1	0	1	6
		4.5%	33.3%	9.1%	0.0%	33.3%	13.0%
	どちらかとい うと思わない	5	4	1	0	1	11
		22.7%	44.4%	9.1%	0.0%	33.3%	23.9%
	どちらかとい うと思う	12	2	8	1	1	24
		54.5%	22.2%	72.7%	100.0%	33.3%	52.2%
とてもそう 思う	4	0	1	0	0	5	
	18.2%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	10.9%	
合計		22	9	11	1	3	46
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	1	4	1	0	2	8
		3.7%	28.6%	5.9%	0.0%	40.0%	12.1%
	どちらかとい うと思わない	8	5	3	0	2	18
		29.6%	35.7%	17.6%	0.0%	40.0%	27.3%
	どちらかとい うと思う	13	5	9	3	1	31
		48.1%	35.7%	52.9%	100.0%	20.0%	47.0%
とてもそう 思う	5	0	4	0	0	9	
	18.5%	0.0%	23.5%	0.0%	0.0%	13.6%	
合計		27	14	17	3	5	66
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

上段は度数、下段は割合。

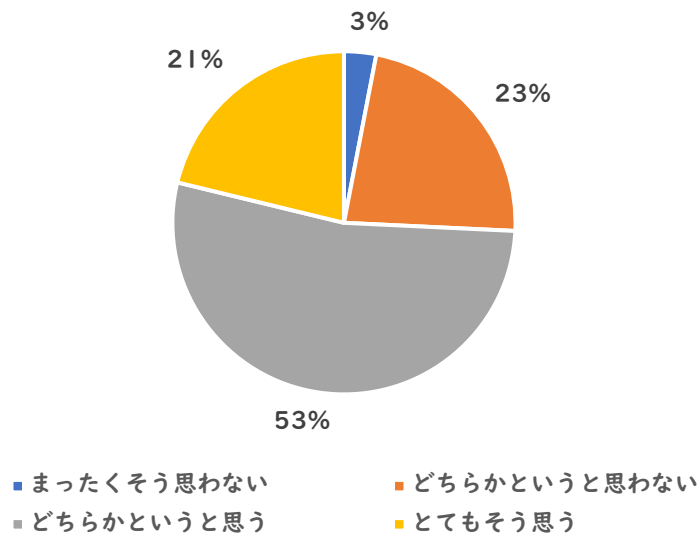
2-6-6 鹿児島県への移住・定住推薦度

(1) 家族など近親者への推薦度（加入者家族票 問8-⑥，SA）

回答者の近親者への移住・定住の推薦度は、「どちらかというと思う」が5割超だった。

図.表 2-6-6-(1) 同郷諸団体加入者家族の近親者への鹿児島県移住・定住の推薦度
(n=66)

近親者への鹿児島県移住・定住の推薦度		
	度数	割合（％）
まったくそう思わない	2	3.0
どちらかというと思わない	15	22.7
どちらかというと思う	35	53.0
とてもそう思う	14	21.2
合計	66	100.0



回答者の近親者に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

近親者に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	どちらかとい うと思わない	1	1	3	0	2	7
		20.0%	20.0%	50.0%	0.0%	100.0%	35.0%
	どちらかとい うと思う	3	4	0	2	0	9
		60.0%	80.0%	0.0%	100.0%	0.0%	45.0%
	とてもそう 思う	1	0	3	0	0	4
		20.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	20.0%
	合計	5	5	6	2	2	20
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
女性	まったくそう 思わない	0	1	0	0	1	2
		0.0%	11.1%	0.0%	0.0%	33.3%	4.3%
	どちらかとい うと思わない	1	4	1	0	2	8
		4.5%	44.4%	9.1%	0.0%	66.7%	17.4%
	どちらかとい うと思う	13	4	8	1	0	26
		59.1%	44.4%	72.7%	100.0%	0.0%	56.5%
	とてもそう 思う	8	0	2	0	0	10
		36.4%	0.0%	18.2%	0.0%	0.0%	21.7%
	合計	22	9	11	1	3	46
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	0	1	0	0	1	2
		0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	20.0%	3.0%
	どちらかとい うと思わない	2	5	4	0	4	15
		7.4%	35.7%	23.5%	0.0%	80.0%	22.7%
	どちらかとい うと思う	16	8	8	3	0	35
		59.3%	57.1%	47.1%	100.0%	0.0%	53.0%
	とてもそう 思う	9	0	5	0	0	14
		33.3%	0.0%	29.4%	0.0%	0.0%	21.2%
	合計	27	14	17	3	5	66
		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

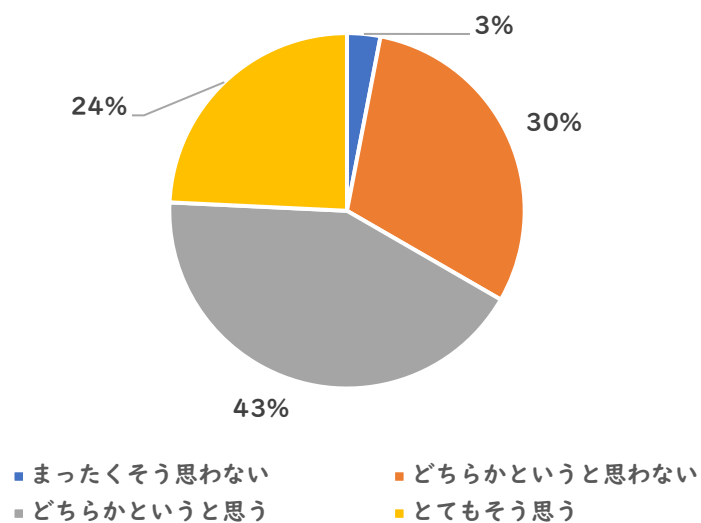
上段は度数、下段は割合。

(2) 知人・友人への推薦度（加入者家族票 問 8-⑦，SA）

回答者の知人・友人への移住・定住の推薦度は、「どちらかという思う」が4割超だった。

図.表 2-6-6-(2) 同郷諸団体加入者家族の知人・友人への鹿児島県移住・定住の推薦度
(n=66)

知人・友人への鹿児島県移住・定住の推薦度		
	度数	割合 (%)
まったくそう思わない	2	3.0
どちらかという思わない	20	30.3
どちらかという思う	28	42.4
とてもそう思う	16	24.2
合計	66	100.0



回答者の知人・友人に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別とのクロス集計結果は次のとおり。

知人・友人に対する鹿児島県への移住・定住の推薦度と年代、性別のクロス表							
		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	まったくそう 思わない	1 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 5.0%
	どちらかとい うと思わない	1 20.0%	1 20.0%	3 50.0%	0 0.0%	2 100.0%	7 35.0%
	どちらかとい うと思う	2 40.0%	2 40.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	6 30.0%
	とてもそう 思う	1 20.0%	2 40.0%	3 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 30.0%
	合計	5 100.0%	5 100.0%	6 100.0%	2 100.0%	2 100.0%	20 100.0%
女性	まったくそう 思わない	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 2.2%
	どちらかとい うと思わない	4 18.2%	5 55.6%	2 18.2%	0 0.0%	2 66.7%	13 28.3%
	どちらかとい うと思う	10 45.5%	4 44.4%	7 63.6%	1 100.0%	0 0.0%	22 47.8%
	とてもそう 思う	8 36.4%	0 0.0%	2 18.2%	0 0.0%	0 0.0%	10 21.7%
	合計	22 100.0%	9 100.0%	11 100.0%	1 100.0%	3 100.0%	46 100.0%
男女合計	まったくそう 思わない	1 3.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	2 3.0%
	どちらかとい うと思わない	5 18.5%	6 42.9%	5 29.4%	0 0.0%	4 80.0%	20 30.3%
	どちらかとい うと思う	12 44.4%	6 42.9%	7 41.2%	3 100.0%	0 0.0%	28 42.4%
	とてもそう 思う	9 33.3%	2 14.3%	5 29.4%	0 0.0%	0 0.0%	16 24.2%
	合計	27 100.0%	14 100.0%	17 100.0%	3 100.0%	5 100.0%	66 100.0%

上段は度数、下段は割合。

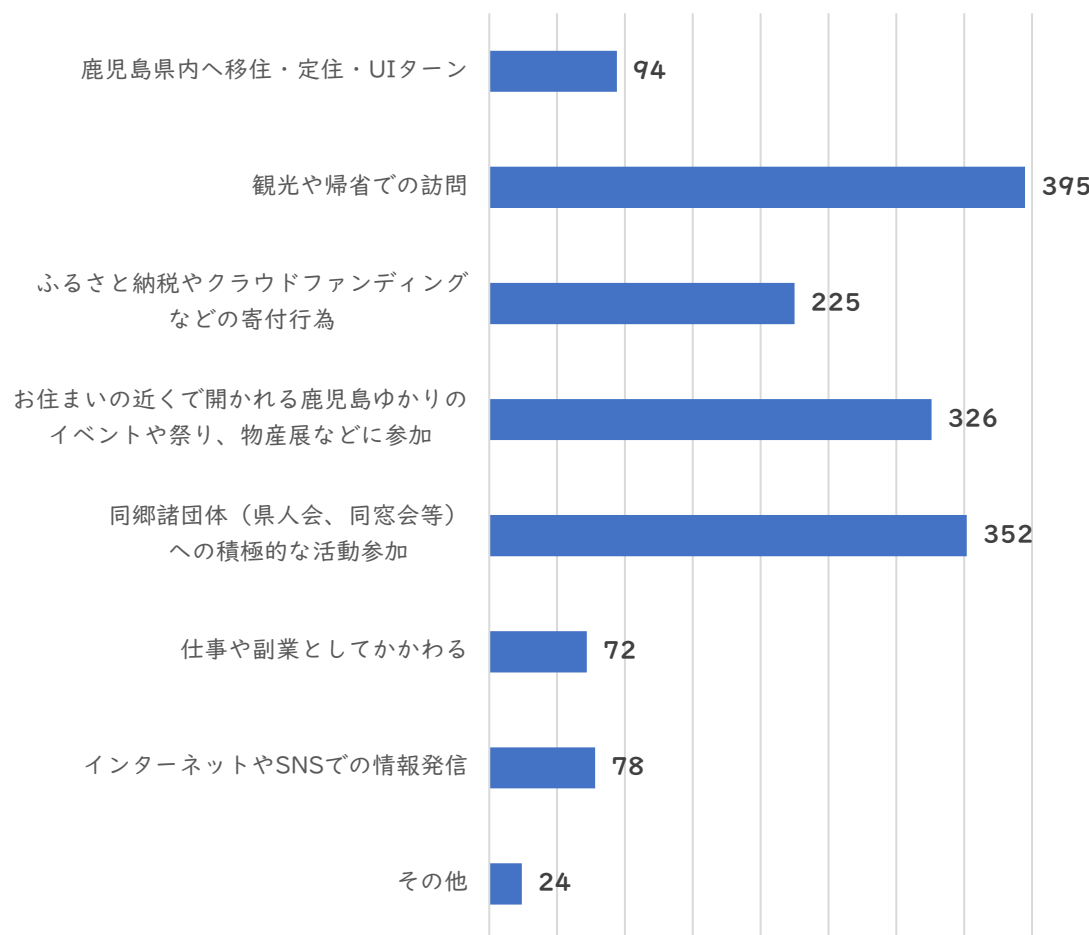
2-7 同郷諸団体加入者の鹿児島県との今後の関わり方

2-7-1 関わり方の良い方法（加入者票 問11、MA）

回答者の鹿児島県と関わる良い方法は、観光や帰省での訪問が最も多く、同郷諸団体の活動への参加、住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベント等への参加が続いた。

図.表 2-7-1 同郷諸団体加入者が鹿児島県と関わる良い方法(N=528)

鹿児島県と関わる良い方法		
	度数	割合(%)
鹿児島県内へ移住・定住・UIターン	94	6.0
観光や帰省での訪問	395	25.2
ふるさと納税やクラウドファンディングなどの寄付行為	225	14.4
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントや祭り、物産展などに参加	326	20.8
同郷諸団体（県人会、同窓会等）への積極的な活動参加	352	22.5
仕事や副業としてかかわる	72	4.6
インターネットやSNSでの情報発信	78	5.0
その他	24	1.5
合計	1566	100.0



回答者が良いと考える鹿児島県と関わる方法と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。調査票の項目と表中の表記との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
鹿児島県内へ移住・定住・UIターン	移住・定住
観光や帰省での訪問	観光・帰省
ふるさと納税やクラウドファンディングなどの寄付行為	ふるさと納税・寄付
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントや祭り、物産展などに参加	ゆかりのイベント
同郷諸団体（県人会、同窓会等）への積極的な活動参加	同郷諸団体の活動
仕事や副業としてかかわる	仕事・副業
インターネットやSNSでの情報発信	ネットでの情報発信
その他	その他

鹿児島県と関わる良い方法と性別、年代とのクロス表

性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	移住・定住	4 9.1%	5 6.3%	13 9.1%	20 7.4%	15 2.9%	57
	観光・帰省	8 18.2%	18 22.5%	29 20.3%	70 25.8%	143 27.9%	268
	ふるさと納税・寄付	7 15.9%	11 13.8%	27 18.9%	41 15.1%	65 12.7%	151
	ゆかりのイベント	7 15.9%	12 15.0%	22 15.4%	55 20.3%	111 21.6%	207
	同郷諸団体の活動	9 20.5%	13 16.3%	27 18.9%	60 22.1%	140 27.3%	249
	仕事・副業	4 9.1%	12 15.0%	15 10.5%	13 4.8%	9 1.8%	53
	ネットでの情報発信	5 11.4%	8 10.0%	10 7.0%	6 2.2%	22 4.3%	51
	その他	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	6 2.2%	8 1.6%	15
	合計	44	80	143	271	513	1051
女性	移住・定住	7 10.8%	5 15.6%	15 12.9%	4 3.5%	5 3.6%	36
	観光・帰省	19 29.2%	6 18.8%	22 19.0%	27 23.5%	41 29.7%	115
	ふるさと納税・寄付	16 24.6%	3 9.4%	18 15.5%	14 12.2%	15 10.9%	66
	ゆかりのイベント	10 15.4%	6 18.8%	25 21.6%	30 26.1%	35 25.4%	106
	同郷諸団体の活動	8 12.3%	6 18.8%	15 12.9%	27 23.5%	36 26.1%	92
	仕事・副業	2 3.1%	3 9.4%	9 7.8%	4 3.5%	0 0.0%	18
	ネットでの情報発信	3 4.6%	2 6.3%	10 8.6%	6 5.2%	3 2.2%	24
	その他	0 0.0%	1 3.1%	2 1.7%	3 2.6%	3 2.2%	9
	合計	65	32	116	115	138	466

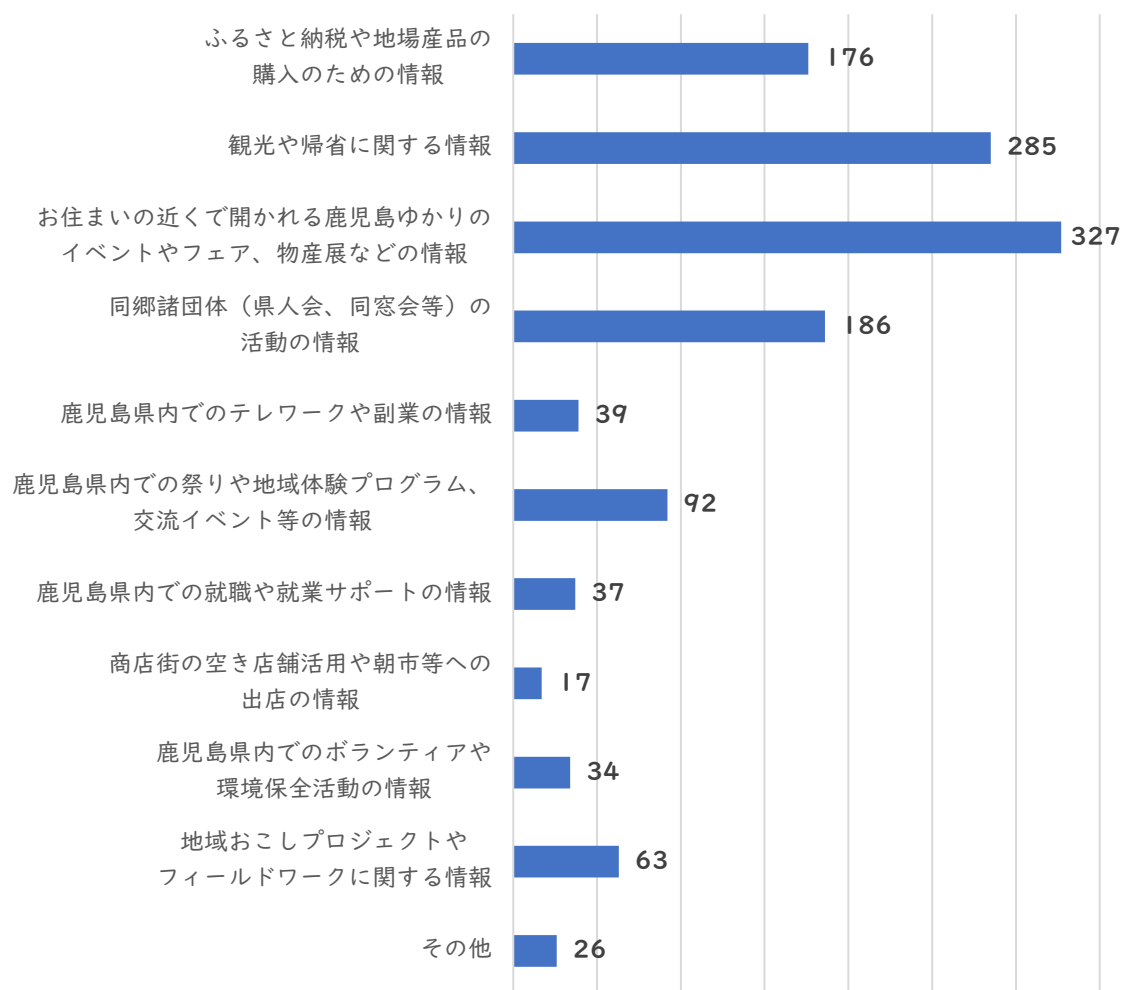
上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

2-7-2 知りたい鹿児島県の情報（加入者票 問12、MA）

回答者が知りたい鹿児島県の情報は、住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベント等が最も多く、観光や帰省、同郷諸団体の活動が続いた。

図.表 2-7-2 同郷諸団体加入者が知りたい鹿児島県の情報(N=528)

知りたい鹿児島県の情報		
	度数	割合(%)
ふるさと納税や地場産品の購入のための情報	176	13.7
観光や帰省に関する情報	285	22.2
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展などの情報	327	25.5
同郷諸団体（県人会、同窓会等）の活動の情報	186	14.5
鹿児島県内でのテレワークや副業の情報	39	3.0
鹿児島県内での祭りや地域体験プログラム、交流イベント等の情報	92	7.2
鹿児島県内での就職や就業サポートの情報	37	2.9
商店街の空き店舗活用や朝市等への出店の情報	17	1.3
鹿児島県内でのボランティアや環境保全活動の情報	34	2.7
地域おこしプロジェクトやフィールドワークに関する情報	63	4.9
その他	26	2.0
合計	1282	100.0



回答者が知りたい鹿児島県の情報と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。
調査票の項目と表中の表記との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
ふるさと納税や地場産品の購入のための情報	ふるさと納税・特産品
観光や帰省に関する情報	観光・帰省
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展などの情報	ゆかりのイベント
同郷諸団体（県人会、同窓会等）の活動の情報	同郷諸団体の活動
鹿児島県内でのテレワークや副業の情報	県内副業
鹿児島県内での祭りや地域体験プログラム、交流イベント等の情報	交流イベント
鹿児島県内での就職や就業サポートの情報	県内就職・就業
商店街の空き店舗活用や朝市等への出店の情報	県内への出店
鹿児島県内でのボランティアや環境保全活動の情報	県内ボランティア
フィールドワークに関する情報	フィールドワーク
その他	その他

知りたい鹿児島県の情報と男女、年代のとのクロス表								
性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	
男性	ふるさと納税・特産品	4 11.4%	9 14.3%	19 16.7%	28 12.3%	61 15.1%	121	
	観光・帰省	7 20.0%	15 23.8%	24 21.1%	46 20.2%	90 22.3%	182	
	ゆかりのイベント	9 25.7%	14 22.2%	23 20.2%	57 25.0%	109 27.0%	212	
	同郷諸団体の活動	6 17.1%	7 11.1%	15 13.2%	39 17.1%	63 15.6%	130	
	交流イベント	3 8.6%	4 6.3%	5 4.4%	12 5.3%	6 1.5%	30	
	県内副業	2 5.7%	6 9.5%	5 4.4%	9 3.9%	29 7.2%	51	
	県内就職・就業	1 2.9%	2 3.2%	7 6.1%	9 3.9%	6 1.5%	25	
	県内への出店	1 2.9%	2 3.2%	2 1.8%	2 0.9%	2 0.5%	9	
	県内ボランティア	0 0.0%	0 0.0%	3 2.6%	6 2.6%	11 2.7%	20	
	フィールドワーク	0 0.0%	4 6.3%	10 8.8%	14 6.1%	16 4.0%	44	
	その他	2 5.7%	0 0.0%	1 0.9%	6 2.6%	11 2.7%	20	
	合計	35	63	114	228	404	844	
	女性	ふるさと納税・特産品	11 18.6%	5 22.7%	10 11.6%	11 9.7%	16 13.4%	53
		観光・帰省	18 30.5%	5 22.7%	18 20.9%	25 22.1%	28 23.5%	94
		ゆかりのイベント	13 22.0%	7 31.8%	19 22.1%	28 24.8%	36 30.3%	103
		同郷諸団体の活動	3 5.1%	2 9.1%	13 15.1%	14 12.4%	17 14.3%	49
交流イベント		3 5.1%	0 0.0%	4 4.7%	2 1.8%	0 0.0%	9	
県内副業		3 5.1%	1 4.5%	8 9.3%	14 12.4%	10 8.4%	36	
県内就職・就業		2 3.4%	1 4.5%	7 8.1%	1 0.9%	0 0.0%	11	
県内への出店		2 3.4%	0 0.0%	2 2.3%	2 1.8%	1 0.8%	7	
県内ボランティア		0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	8 7.1%	4 3.4%	13	
フィールドワーク		4 6.8%	1 4.5%	3 3.5%	7 6.2%	3 2.5%	18	
その他		0 0.0%	0 0.0%	1 1.2%	1 0.9%	4 3.4%	6	
合計		59	22	86	113	119	399	

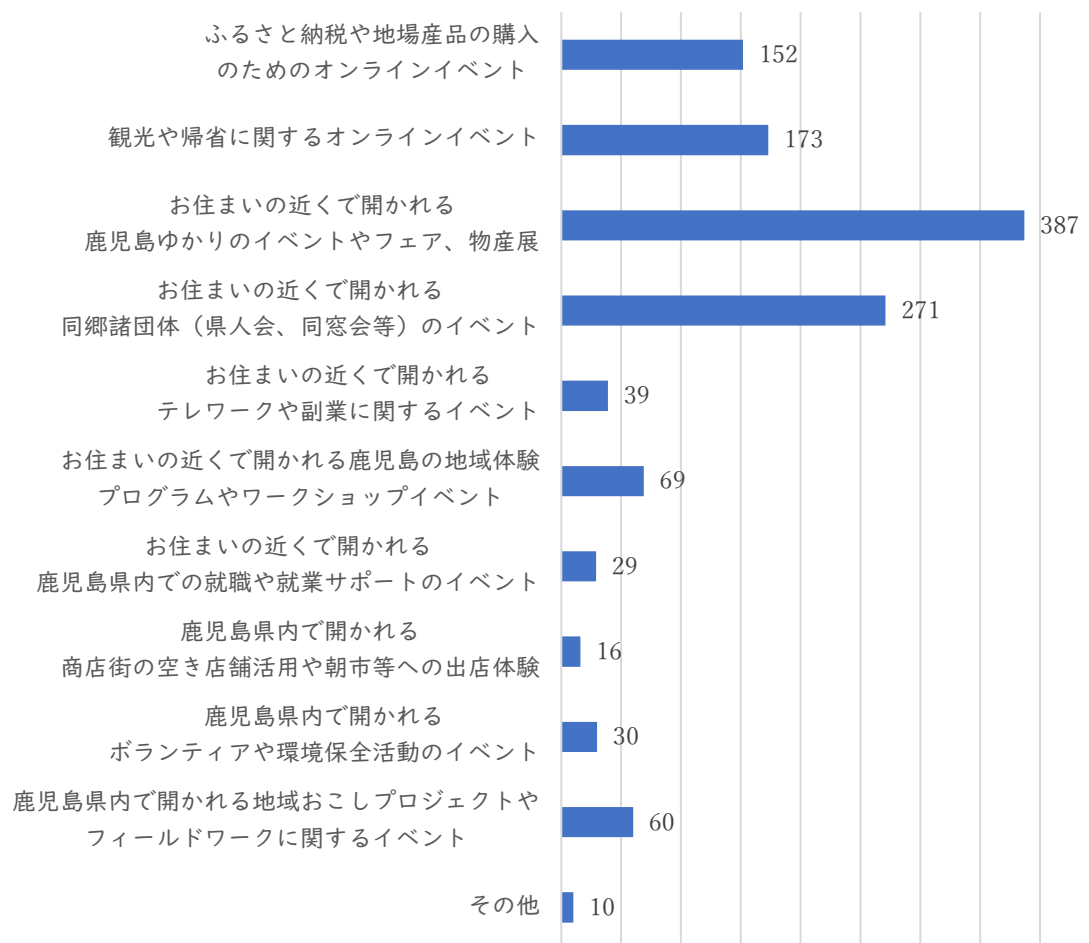
上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

2-7-3 参加を希望する鹿児島県の取り組み（加入者票 問13、MA）

回答者が参加を希望する鹿児島県の取り組みは、住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベント等が最も多く、住まいの近くで開かれる同郷諸団体のイベント、観光や帰省に関するオンラインイベントが続いた。

図.表 2-7-3 同郷諸団体加入者が参加を希望する鹿児島県の取り組み(N=528)

参加を希望する鹿児島県の取り組み		
	度数	割合(%)
ふるさと納税や地場産品の購入のためのオンラインイベント	152	12.3
観光や帰省に関するオンラインイベント	173	14.0
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展	387	31.3
お住まいの近くで開かれる同郷諸団体（県人会、同窓会等）のイベント	271	21.9
お住まいの近くで開かれるテレワークや副業に関するイベント	39	3.2
お住まいの近くで開かれる鹿児島の地域体験プログラムやワークショップイベント	69	5.6
お住まいの近くで開かれる鹿児島県内での就職や就業サポートのイベント	29	2.3
鹿児島県内で開かれる商店街の空き店舗活用や朝市等への出店体験	16	1.3
鹿児島県内で開かれるボランティアや環境保全活動のイベント	30	2.4
鹿児島県内で開かれる地域おこしプロジェクトやフィールドワークに関するイベント	60	4.9
その他	10	0.8
合計	1236	100.0



回答者が参加を希望する鹿児島県の情報と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。ただし、表中の表記と回答項目との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
ふるさと納税や地場産品の購入のためのオンラインイベント	ふるさと納税・特産品
観光や帰省に関するオンラインイベント	観光・帰省
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展	ゆかりのイベント
お住まいの近くで開かれる同郷諸団体（県人会、同窓会等）のイベント	同郷諸団体の活動
お住まいの近くで開かれるテレワークや副業に関するイベント	県内副業
お住まいの近くで開かれる鹿児島島の地域体験プログラムやワークショップイベント	体験プログラム
お住まいの近くで開かれる鹿児島県内での就職や就業サポートのイベント	県内就職・就業
鹿児島県内で開かれる商店街の空き店舗活用や朝市等への出店体験	県内への出店
鹿児島県内で開かれるボランティアや環境保全活動のイベント	県内ボランティア
フィールドワークに関するイベント	フィールドワーク
その他	その他

参加を希望する鹿児島県の取り組みと性別、年代とのクロス表							
性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	ふるさと納税・特産品	2	7	15	31	53	108
		6.7%	12.5%	14.2%	14.0%	12.9%	
	観光・帰省	2	6	16	37	61	122
		6.7%	10.7%	15.1%	16.7%	14.8%	
	ゆかりのイベント	10	16	25	65	135	251
		33.3%	28.6%	23.6%	29.4%	32.8%	
	同郷諸団体の活動	9	10	19	43	106	187
		30.0%	17.9%	17.9%	19.5%	25.8%	
	県内副業	3	4	5	11	5	28
		10.0%	7.1%	4.7%	5.0%	1.2%	
	体験プログラム	1	4	6	7	15	33
		3.3%	7.1%	5.7%	3.2%	3.6%	
	県内就職・就業	0	3	2	8	4	17
		0.0%	5.4%	1.9%	3.6%	1.0%	
	県内への出店	1	2	2	1	2	8
		3.3%	3.6%	1.9%	0.5%	0.5%	
	県内ボランティア	0	1	4	5	8	18
		0.0%	1.8%	3.8%	2.3%	1.9%	
	フィールドワーク	2	3	11	10	17	43
		6.7%	5.4%	10.4%	4.5%	4.1%	
	その他	0	0	1	3	5	9
		0.0%	0.0%	0.9%	1.4%	1.2%	
	合計		30	56	106	221	411
女性	ふるさと納税・特産品	11	1	9	9	10	40
		18.6%	4.8%	10.6%	8.9%	8.8%	
	観光・帰省	9	2	11	10	14	46
		15.3%	9.5%	12.9%	9.9%	12.4%	
	ゆかりのイベント	16	7	24	34	46	127
		27.1%	33.3%	28.2%	33.7%	40.7%	
	同郷諸団体の活動	6	4	18	19	29	76
		10.2%	19.0%	21.2%	18.8%	25.7%	
	県内副業	2	3	4	0	1	10
		3.4%	14.3%	4.7%	0.0%	0.9%	
	体験プログラム	8	2	6	14	5	35
		13.6%	9.5%	7.1%	13.9%	4.4%	
	県内就職・就業	3	0	5	3	0	11
		5.1%	0.0%	5.9%	3.0%	0.0%	
	県内への出店	1	0	1	3	1	6
		1.7%	0.0%	1.2%	3.0%	0.9%	
	県内ボランティア	0	0	1	5	5	11
		0.0%	0.0%	1.2%	5.0%	4.4%	
	フィールドワーク	3	2	6	4	1	16
		5.1%	9.5%	7.1%	4.0%	0.9%	
	その他	0	0	0	0	1	1
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	
	合計		59	21	85	101	113

上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

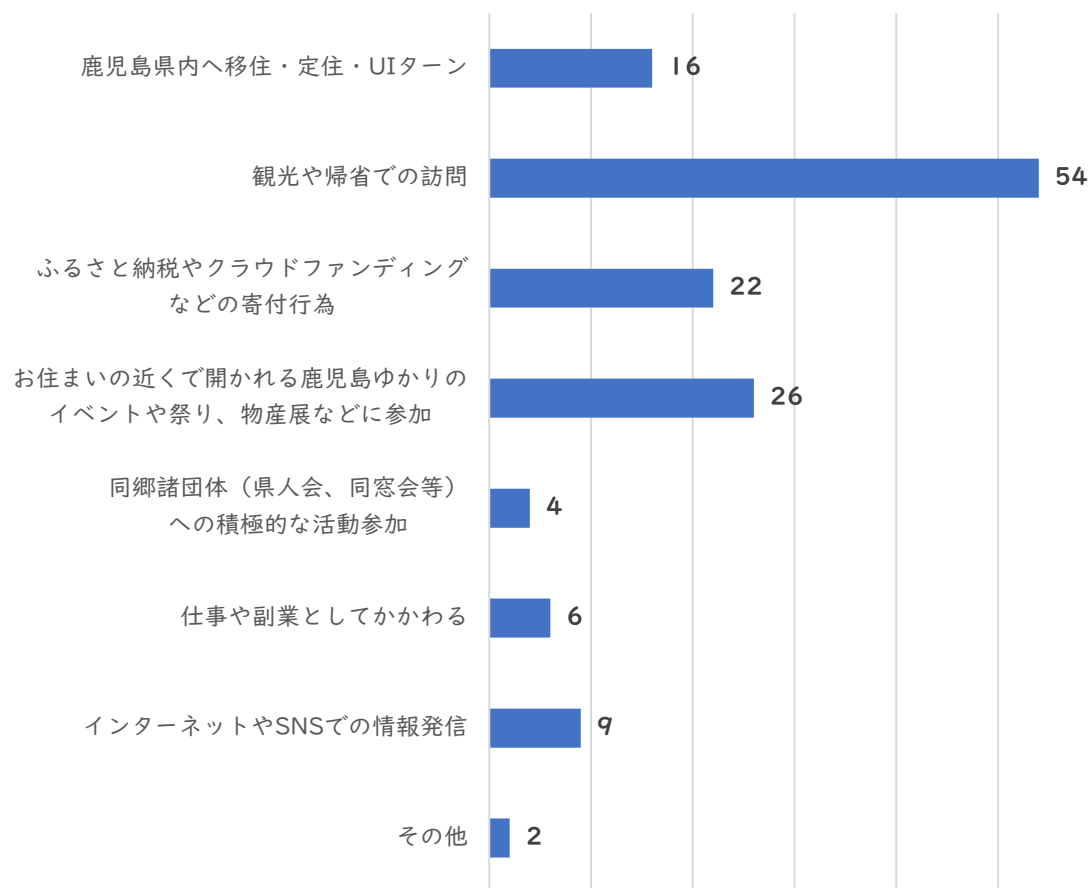
2-8 同郷諸団体加入者家族の鹿児島県との今後の関わり方

2-8-1 関わり方の良い方法（加入者家族票 問9、MA）

回答者の鹿児島県との関わる良い方法は、観光や帰省での訪問が最も多く、住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベント等への参加が続いた。

図.表 2-8-1 同郷諸団体加入者家族が鹿児島県と関わる良い方法(N=66)

鹿児島県と関わる良い方法		
	度数	割合(%)
鹿児島県内へ移住・定住・UIターン	16	11.5
観光や帰省での訪問	54	38.8
ふるさと納税やクラウドファンディングなどの寄付行為	22	15.8
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントや祭り、物産展などに参加	26	18.7
同郷諸団体（県人会、同窓会等）への積極的な活動参加	4	2.9
仕事や副業としてかかわる	6	4.3
インターネットやSNSでの情報発信	9	6.5
その他	2	1.4
合計	139	100.0



回答者が良いと考える鹿児島県と関わる方法と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。表中の表記と回答項目との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
鹿児島県内へ移住・定住・UIターン	移住・定住
観光や帰省での訪問	観光・帰省
ふるさと納税やクラウドファンディングなどの寄付行為	ふるさと納税・寄付
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントや祭り、物産展などに参加	ゆかりのイベント
同郷諸団体（県人会、同窓会等）への積極的な活動参加	同郷諸団体の活動
仕事や副業としてかかわる	仕事・副業
インターネットやSNSでの情報発信	ネットでの情報発信
その他	その他

鹿児島県と関わる良い方法と性別、年代とのクロス表

性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	移住・定住	0 0.0%	1 12.5%	3 18.8%	1 33.3%	0 0.0%	5
	観光・帰省	3 37.5%	5 62.5%	6 37.5%	1 33.3%	2 50.0%	17
	ふるさと納税・寄付	1 12.5%	1 12.5%	2 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	4
	ゆかりのイベント	1 12.5%	1 12.5%	3 18.8%	1 33.3%	1 25.0%	7
	同郷諸団体の活動	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1
	仕事・副業	0 0.0%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	1 25.0%	2
	ネットでの情報発信	1 12.5%	0 0.0%	1 6.3%	0 0.0%	0 0.0%	2
	その他	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1
	合計	8	8	16	3	4	39
女性	移住・定住	9 17.3%	0 0.0%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	11
	観光・帰省	17 32.7%	7 41.2%	10 45.5%	1 20.0%	2 50.0%	37
	ふるさと納税・寄付	12 23.1%	2 11.8%	2 9.1%	1 20.0%	1 25.0%	18
	ゆかりのイベント	7 13.5%	5 29.4%	5 22.7%	1 20.0%	1 25.0%	19
	同郷諸団体の活動	1 1.9%	0 0.0%	1 4.5%	1 20.0%	0 0.0%	3
	仕事・副業	2 3.8%	1 5.9%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	4
	ネットでの情報発信	4 7.7%	2 11.8%	0 0.0%	1 20.0%	0 0.0%	7
	その他	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	1
	合計	52	17	22	5	4	100

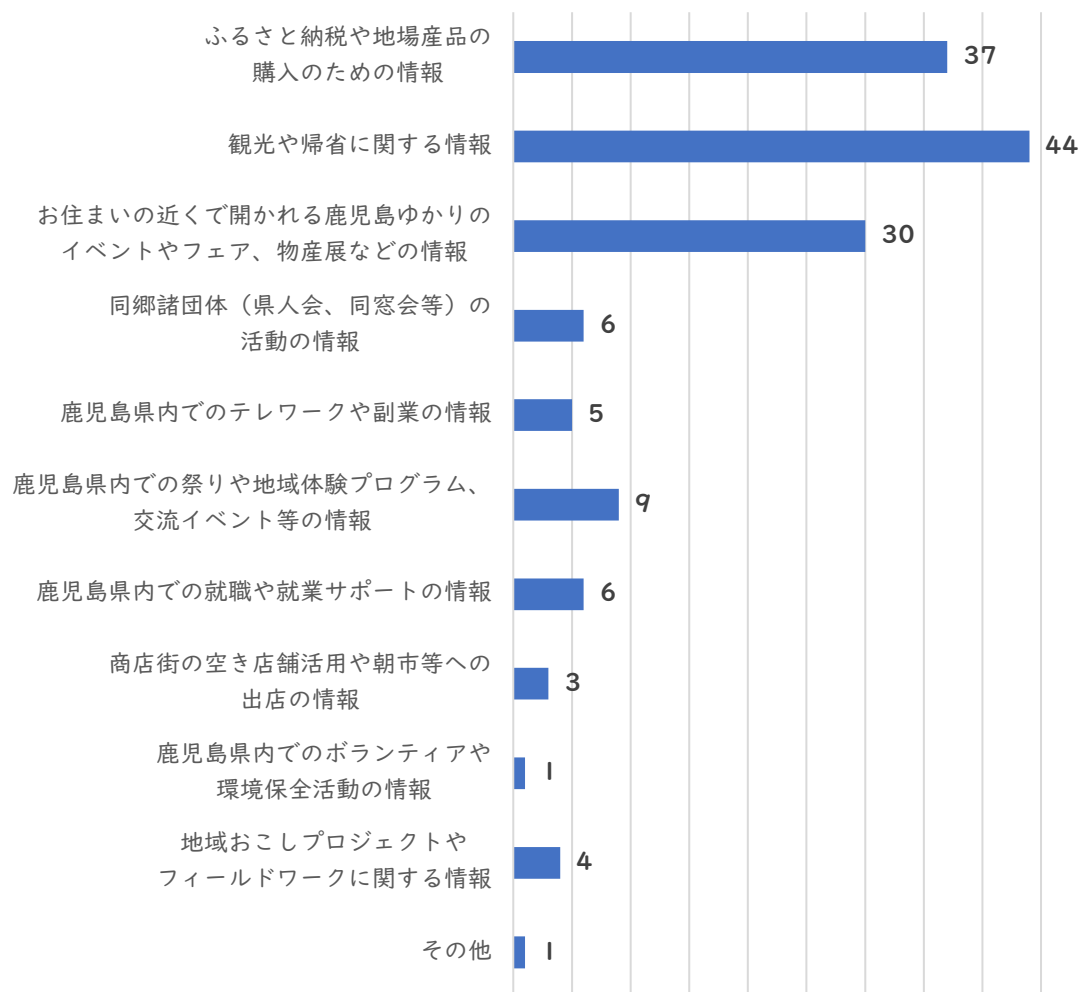
上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

2-8-2 知りたい鹿児島県の情報（加入者家族票 問10、MA）

回答者が知りたい鹿児島県の情報は、観光や帰省が最も多く、ふるさと納税や地場産品の購入、住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベント等がそれぞれ続いた。

図.表 2-8-2 同郷諸団体加入者家族が知りたい鹿児島県の情報(N=66)

知りたい鹿児島県の情報		
	度数	割合(%)
ふるさと納税や地場産品の購入のための情報	37	25.3
観光や帰省に関する情報	44	30.1
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展などの情報	30	20.5
同郷諸団体（県人会、同窓会等）の活動の情報	6	4.1
鹿児島県内でのテレワークや副業の情報	5	3.4
鹿児島県内での祭りや地域体験プログラム、交流イベント等の情報	9	6.2
鹿児島県内での就職や就業サポートの情報	6	4.1
商店街の空き店舗活用や朝市等への出店の情報	3	2.1
鹿児島県内でのボランティアや環境保全活動の情報	1	0.7
地域おこしプロジェクトやフィールドワークに関する情報	4	2.7
その他	1	0.7
合計	146	100.0



回答者が知りたい鹿児島の情報と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。
表中の表記と回答項目との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
ふるさと納税や地場産品の購入のための情報	ふるさと納税・特産品
観光や帰省に関する情報	観光・帰省
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展などの情報	ゆかりのイベント
同郷諸団体（県人会、同窓会等）の活動の情報	同郷諸団体の活動
鹿児島県内でのテレワークや副業の情報	県内副業
鹿児島県内での祭りや地域体験プログラム、交流イベント等の情報	交流イベント
鹿児島県内での就職や就業サポートの情報	県内就職・就業
商店街の空き店舗活用や朝市等への出店の情報	県内への出店
鹿児島県内でのボランティアや環境保全活動の情報	県内ボランティア
フィールドワークに関する情報	フィールドワーク
その他	その他

知りたい鹿児島県の情報と男女、年代のとのクロス表							
性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	ふるさと納税・特産品	3	3	3	1	0	10
		23.1%	27.3%	23.1%	25.0%	0.0%	
	観光・帰省	2	4	4	2	2	14
		15.4%	36.4%	30.8%	50.0%	66.7%	
	ゆかりのイベント	1	1	3	1	0	6
		7.7%	9.1%	23.1%	25.0%	0.0%	
	同郷諸団体の活動	1	0	1	0	0	2
		7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	交流イベント	2	0	0	0	1	3
		15.4%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	
	県内副業	3	1	1	0	0	5
		23.1%	9.1%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内就職・就業	1	0	1	0	0	2
		7.7%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内への出店	0	1	0	0	0	1
		0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	
	県内ボランティア	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	フィールドワーク	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
その他	0	1	0	0	0	1	
	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計		13	11	13	4	3	44
女性	ふるさと納税・特産品	12	6	7	1	1	27
		24.0%	28.6%	29.2%	33.3%	25.0%	
	観光・帰省	13	8	6	1	2	30
		26.0%	38.1%	25.0%	33.3%	50.0%	
	ゆかりのイベント	10	6	7	0	1	24
		20.0%	28.6%	29.2%	0.0%	25.0%	
	同郷諸団体の活動	2	0	1	1	0	4
		4.0%	0.0%	4.2%	33.3%	0.0%	
	交流イベント	1	0	1	0	0	2
		2.0%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	
	県内副業	1	1	2	0	0	4
		2.0%	4.8%	8.3%	0.0%	0.0%	
	県内就職・就業	4	0	0	0	0	4
		8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	県内への出店	2	0	0	0	0	2
		4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	県内ボランティア	1	0	0	0	0	1
		2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	フィールドワーク	4	0	0	0	0	4
		8.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
その他	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計		50	21	24	3	4	102

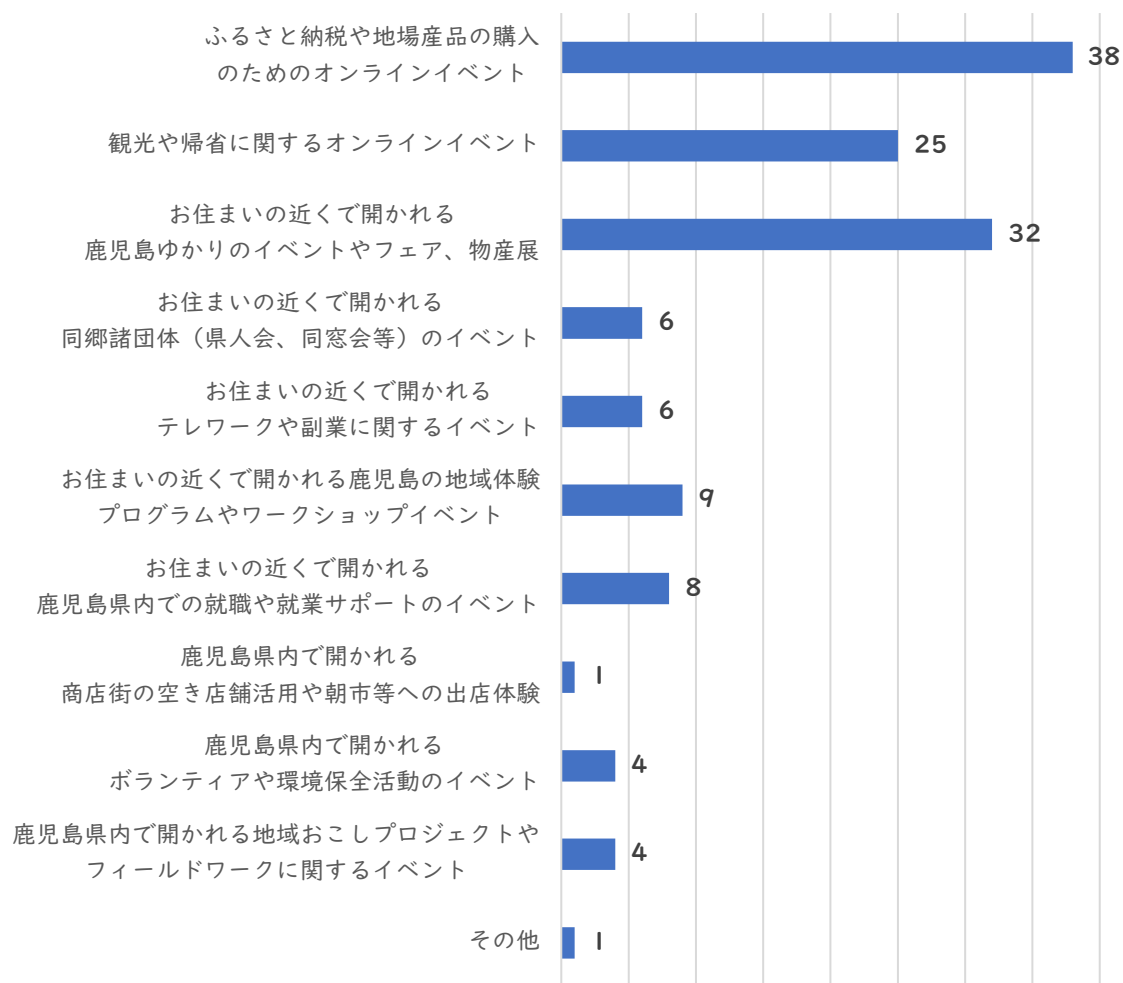
上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

2-8-3 参加を希望する鹿児島県の取り組み（加入者家族票 問11、MA）

回答者が参加を希望する鹿児島県の取り組みは、ふるさと納税や地場産品の購入が最も多く、住まいの近くで開かれる同郷諸団体のイベント、観光や帰省に関するオンラインイベントが続いた。

図.表 2-8-3 同郷諸団体加入者家族が参加を希望する鹿児島県の取り組み(N=66)

参加を希望する鹿児島県の取り組み		
	度数	割合(%)
ふるさと納税や地場産品の購入のためのオンラインイベント	38	28.4
観光や帰省に関するオンラインイベント	25	18.7
お住まいの近くで開かれる 鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展	32	23.9
お住まいの近くで開かれる 同郷諸団体（県人会、同窓会等）のイベント	6	4.5
お住まいの近くで開かれる テレワークや副業に関するイベント	6	4.5
お住まいの近くで開かれる鹿児島県の地域体験 プログラムやワークショップイベント	9	6.7
お住まいの近くで開かれる 鹿児島県内での就職や就業サポートのイベント	8	6.0
鹿児島県内で開かれる 商店街の空き店舗活用や朝市等への出店体験	1	0.7
鹿児島県内で開かれる ボランティアや環境保全活動のイベント	4	3.0
鹿児島県内で開かれる地域おこしプロジェクトや フィールドワークに関するイベント	4	3.0
その他	1	0.7
合計	134	100.0



回答者が参加を希望する鹿児島県の情報と年代、性別とのクロス集計結果を次ページに示す。ただし、表中の表記と回答項目との対応は次のとおり。

調査票の項目	表中の表記
ふるさと納税や地場産品の購入のためのオンラインイベント	ふるさと納税・特産品
観光や帰省に関するオンラインイベント	観光・帰省
お住まいの近くで開かれる鹿児島ゆかりのイベントやフェア、物産展	ゆかりのイベント
お住まいの近くで開かれる同郷諸団体（県人会、同窓会等）のイベント	同郷諸団体の活動
お住まいの近くで開かれるテレワークや副業に関するイベント	県内副業
お住まいの近くで開かれる鹿児島の地域体験プログラムやワークショップイベント	体験プログラム
お住まいの近くで開かれる鹿児島県内での就職や就業サポートのイベント	県内就職・就業
鹿児島県内で開かれる商店街の空き店舗活用や朝市等への出店体験	県内への出店
鹿児島県内で開かれるボランティアや環境保全活動のイベント	県内ボランティア
フィールドワークに関するイベント	フィールドワーク
その他	その他

参加を希望する鹿児島県の取り組みと性別、年代とのクロス表							
性別		39歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	ふるさと納税・特産品	2	5	4	1	1	13
		22.2%	50.0%	30.8%	50.0%	50.0%	
	観光・帰省	1	3	3	1	0	8
		11.1%	30.0%	23.1%	50.0%	0.0%	
	ゆかりのイベント	1	2	1	0	0	4
		11.1%	20.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	同郷諸団体の活動	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内副業	1	0	0	0	1	2
		11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
	体験プログラム	2	0	1	0	0	3
		22.2%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内就職・就業	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内への出店	0	0	1	0	0	1
		0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	
	県内ボランティア	0	0	0	0	0	0
0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
フィールドワーク	1	0	1	0	0	2	
	11.1%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%		
その他	1	0	0	0	0	1	
	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計		9	10	13	2	2	25
女性	ふるさと納税・特産品	13	4	5	1	2	25
		26.5%	23.5%	20.0%	33.3%	50.0%	
	観光・帰省	8	5	3	1	0	17
		16.3%	29.4%	12.0%	33.3%	0.0%	
	ゆかりのイベント	11	7	7	1	2	28
		22.4%	41.2%	28.0%	33.3%	50.0%	
	同郷諸団体の活動	2	1	2	0	0	5
		4.1%	5.9%	8.0%	0.0%	0.0%	
	県内副業	4	0	0	0	0	4
		8.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	体験プログラム	4	0	2	0	0	6
		8.2%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	
	県内就職・就業	3	0	4	0	0	7
		6.1%	0.0%	16.0%	0.0%	0.0%	
	県内への出店	0	0	0	0	0	0
		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	県内ボランティア	2	0	2	0	0	4
4.1%		0.0%	8.0%	0.0%	0.0%		
フィールドワーク	2	0	0	0	0	2	
	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
その他	0	0	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
合計		49	17	25	3	4	98

上段は度数、下段は割合。いずれも選択数を基に計算。

2-9 同郷諸団体加入者とその家族の今後の鹿児島県との関わり方への自由意見

本調査では、以下2つの設問の自由記述欄における計量テキスト分析を行った。分析は、国立大学法人鹿児島大学法文学部法経社会学科（経済コース）の安藤良祐助教に依頼した。

次ページ以降は安藤助教の執筆による。

表 2-9 同郷諸団体加入者と同家族向け調査票の自由記述分析における設問

設問	加入者向け調査票	加入者家族向け調査票
鹿児島県に帰省や旅行をする、またはしたいと思うのはどんな時ですか。	問7	問5
鹿児島県に今後、どのようにかかわっていきたいと考えていますか。	問14	問12

令和6年度「関係人口創出・拡大県人会等調査」に係るテキスト分析

鹿児島大学

安藤 良祐

1. はじめに

本分析は鹿児島県総合政策部地域政策課が株式会社南日本新聞社に委託して実施した「令和6年度関係人口創出・拡大県人会等調査」のうち、加入者票と加入者家族票のそれぞれ問7及び問5の「鹿児島県に帰省や旅行をする、又はしたいと思うのはどのような時ですか」、両調査票のそれぞれ問14及び問12の「鹿児島県に今後、どのように関わっていきたいと考えていますか？自由にご意見をお書きください。」について、テキストマイニングの手法を用いて分析するものである。

2. 実施スケジュール

本調査の実施スケジュールは以下のとおり実施した。

- ・ 調査データの共有 : 1/31(金)
- ・ 調査データの分析 : 1/31(金)-2/3(月)
- ・ 報告資料の作成 : 2/3(月)-2/6(木)
- ・ 南日本新聞社へ納品 : 2/6(木)

3. テキストマイニングと分析ツールの特徴

テキストマイニングとは、文章・音声・映像などの質的データを分析する内容分析(content analysis)に分類される手法であり、質的データのうち特に**文章などのテキスト型データを分析する手法**である。本手法の導入は古く1960年代には2とおりのアプローチが確立された。すなわち、①分析者が作成した基準であるコーディングルールにしたがって言葉や文書を分類するアプローチ、②同一文書中に頻出する言葉のグループや共通する言葉を多く含む文書のグループを多変量解析によって分析するアプローチである。テキストマイニングにあたっては、どちらのアプローチも一長一短あり、互いに補完しあうことが必要であるが、それぞれが独自に発展を遂げており、分析手法の考え方には著しい乖離がある。

しかし、今回の分析に利用するテキストマイニングツールである「KH コーダー」は以下の2段階を踏む接合型アプローチで文書などを分析するツールであり、**双方のアプローチを補完しあうように開発されている**。それゆえ、分析自由度を担保しつつ精度の高いテキストマイニングが可能なツールとなっている。

【KH コーダーの特徴】

- ① 多変量解析を利用することで、分析者のもつ理論や問題意識の影響を極力受けない形でデータを要約・提示する。
⇒ 分析者の理論や仮説にとって都合がよいコーディングルールばかりが作成されてしまいうる可能性を排除できる。
- ② コーディングルールを作成することで明示的に理論仮設の検証や問題意識の追求を行う。
⇒ 多変量解析では理論や問題意識を自由に操作できない問題を回避できる。

4. 分析方法

本分析は「令和 6 年度関係人口創出・拡大県人会等調査」のうち、両調査票のそれぞれ問 7 及び問 5 の「鹿児島県に帰省や旅行をする、又はしたいと思うのはどのような時ですか」と、両調査票のそれぞれ問 12 及び問 14 の「鹿児島県に今後、どのようにかわっていきたいと考えていますか？自由にご意見をお書きください。」を分析するものである。これらの問いは問題文のとおり、回答者に自由回答を求めるものであり、回答結果の分析にはテキストマイニングが適している。なお、集約された回答結果は株式会社南日本新聞社からエクセル形式で共有され、それを KH コーダーにて分析可能な形で加工している。

表 1 回答意図の分類

No.	回答意図	概要	回答内容の例(原文のまま)
1	応援(購買)	ふるさと納税や、鹿児島関連の物産展、通販などを通して、鹿児島県産品を購入する・したいとの意図	ふるさと納税、居住地域で開催される物産展、アンテナショップでの買い物
2	応援(交流)	県人会、同郷会、関連イベントなどへの参加を通して応援する・したいとの意図	同郷諸団体（県人会、同窓会等）への積極的な活動に参加すること。
3	応援(その他)	具体例はないものの機会があれば応援する・したいとの意図	故郷が活性化するために出来ることは関わりたい。
4	観光	鹿児島への観光・旅行を通じてかかわっていききたいとの意図	ご飯、お茶、釣り、桜島などリフレッシュするには最高の鹿児島なので定期的に行きたい
5	帰省	定期的な帰省を通じてかかわっていききたいとの意図	両親がまだ住んでいるので、孫の顔を見せに年に 2-3 回は帰省して、その際は鹿児島らしい食事をしたいと思う。
6	仕事	鹿児島に仕事・起業などを通じてかかわっていききたいとの意図	鹿児島を盛り上げられるような、また、帰省するきっかけになるような事業を行いたい。
7	宣伝	鹿児島の情報を周囲に発信することでかかわっていききたいとの意図	・鹿児島県の魅力をもっと発信してほしい（していききたい）。観光、神話からの歴史等（市内だけではなく） ・交流
8	その他	上記に分類できない回答	ー

ここでデータの加工に際しては、エクセルのセル順序を変更するものなどであり、回答者の回答が改変されるようなものではない。なお、分析に際しては、加入者家族向けアンケートも対象であり、加入者向け問 7・家族向け問 5、加入者向け問 14・家族向け問 12 の回答を対象に分析している。

まず問 7 及び問 5 では、全 467 回答のうち回答内容が質問意図に沿っていないもの、年齢データ・住居データの記載がないものを除く 448 回答を分析対象とする。次に問 12 及び問 14 では、回答内容から表 1 のとおりに回答意図を分類している。本分類でも対応分析を行うことにする。回答内容から意図が多数含まれる場合は最初に表出した意図、回答内容から最も主張したいと推察される意図を勘案して、回答意図を分類した。なお、問

7 及び問 5 と同様に、全 309 回答のうち回答内容が質問意図に沿っていないもの、年齢データ・住居データの記載がないものを除く 306 回答を分析対象とする。

5. 分析結果

(ア) 問 7 及び問 5 「鹿児島県に帰省や旅行をする、又はしたいと思うのはどのような時ですか」

まず全体的な回答概要では、後述するテキストマイニングでは、年代・居住地によって回答傾向に差がないか確認するため、表 2 のとおり、年代・居住地の分類を行っている。回答年代では県人会・同窓会組織を対象にしたアンケートであるため、当然ながら回答比率は高年代が高く、若年代が低い。この点は以後の分析でも回答傾向を解釈する際には留意すべき点である。同様に居住地では関東地区が過半数以上であり、こちらも回答に偏りがあることに留意しなければならない。

表 2 回答概要(回答意図・年代：有効回答数 448 人)

年代	人数 (%)	居住地	人数 (%)
20 代以下	23 (5%)	関東	260 (58%)
30 代	31 (7%)	関西	121 (27%)
40 代	36 (8%)	九州(鹿児島他)	27 (6%)
50 代	73 (16%)	九州(鹿児島)	12 (3%)
60 代	110 (25%)	その他	28 (6%)
70 代	139 (31%)	-	-
80 代以上	36 (8%)	-	-

それでは、具体的に問 7 及び問 5 のテキストマイニング分析に移りたい。問 7 及び問 5 の全体的な回答傾向を探るために、共起ネットワーク分析を行う。共起ネットワーク分析とは、回答者の回答文章に含まれる言葉間の共通項を見出すものであり、言葉間のつながりをビジュアライズによって視覚的に理解できるものである。つまり、同じ文章中に共起しやすかった言葉を把握できる。

結果は図 1 に示すとおりである。図中の同じ色の集まりが共起クラスターを示しており、同じ文章中に発現しやすかった言葉となる。バブルの大きさがカウントした言葉の数を表しており、バブルが大きいほどカウントした言葉の数が多かったことになる。またバブル間をつなぐ線は言葉の共起関係の強さを示しており、濃線ほど関係性が強いことを示している。

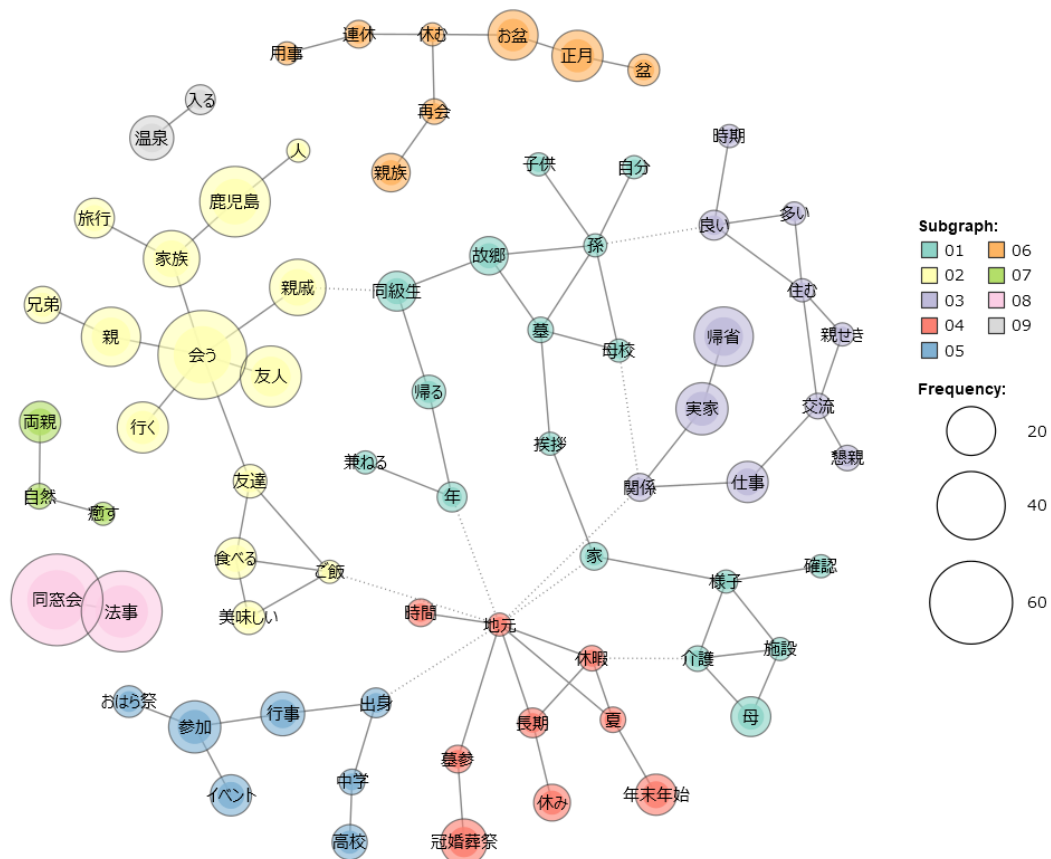


図1 共起ネットワーク：最小出現数4、上位70文字

共起クラスターは全9種類に分類されるが、クラスター01では、親や孫に会うことが主な理由として挙げられる。例えば、介護施設に入所する親を訪れる場合や墓参りなど、近親者との面会を目的とするケースが含まれる。クラスター02では、クラスター01と同様に家族や友人との再会が目的であるが、旅行を伴う傾向がより顕著である。このように、鹿児島県の家族・親類・友人に会うことを主目的とする帰郷意向が強く表れている。また、クラスター04やクラスター06に見られるように、年末年始や夏季休暇などの長期休暇を利用して訪問したいという意図も確認された。総じて、**特に特徴的な回答を示すクラスターは見られなかったものの、全体として家族や友人に会うことを目的とした帰郷意向が強いことが示唆される。**これは、県人会といった組織に所属する人々が、鹿児島との結びつきが強く、郷土愛が高い傾向にあるためであると考えられる。

続いて、対応分析から回答傾向を分析する。対応分析では、「回答内容×年代」「回答内容×居住地」でどのような傾向があるかを確認したい。なお、分析の見方としては、グラフ中の原点付近の言葉は出現パターンに取り立てて特徴のない語、つまり全体的に利用されている語であり、原点から見て「年代」「居住地」の方向にプロットされている語、加えて原点から距離があるほどそれぞれの「年代」「居住地」を特徴づける語であると解釈できる。バブルの大きさは共起ネットワークと同様にカウントした言葉の数を示す。

まず図 2 に示すとおり「回答内容×年代」を分析するが、以下のとおり大きく 3 グループに分類できると解釈できる。

- ① 40 代以下グループ
- ② 50 代～60 代グループ
- ③ 70 代以上グループ

「40 代以下グループ」では、長期休暇時に家族や友人と美食を楽しんだり、自然や温泉を満喫したいと考える娯楽として鹿児島をアクティブに楽しみたいと考える人が多いと読み取れる。続いて「50 代～60 代グループ」では、長期休暇時に鹿児島を訪れたいとするが、親や兄弟に合う、特に両親の様子を確認したいとの動機が強いと考えられる。介護が必要となった高齢な親が心配となる年代に入っており、娯楽よりも義務として帰郷したいと考える人が多くなるのであろう。

一方、「70 代以上グループ」では、この年代は法事や墓参りといった理由が多くなるものの、おはら祭など観光でも楽しみたいとする回答もある。親や親族も居なくなってしまうものの、望郷の念は変わらず、観光やイベントを訪ねたいとの心境の変化が見える。

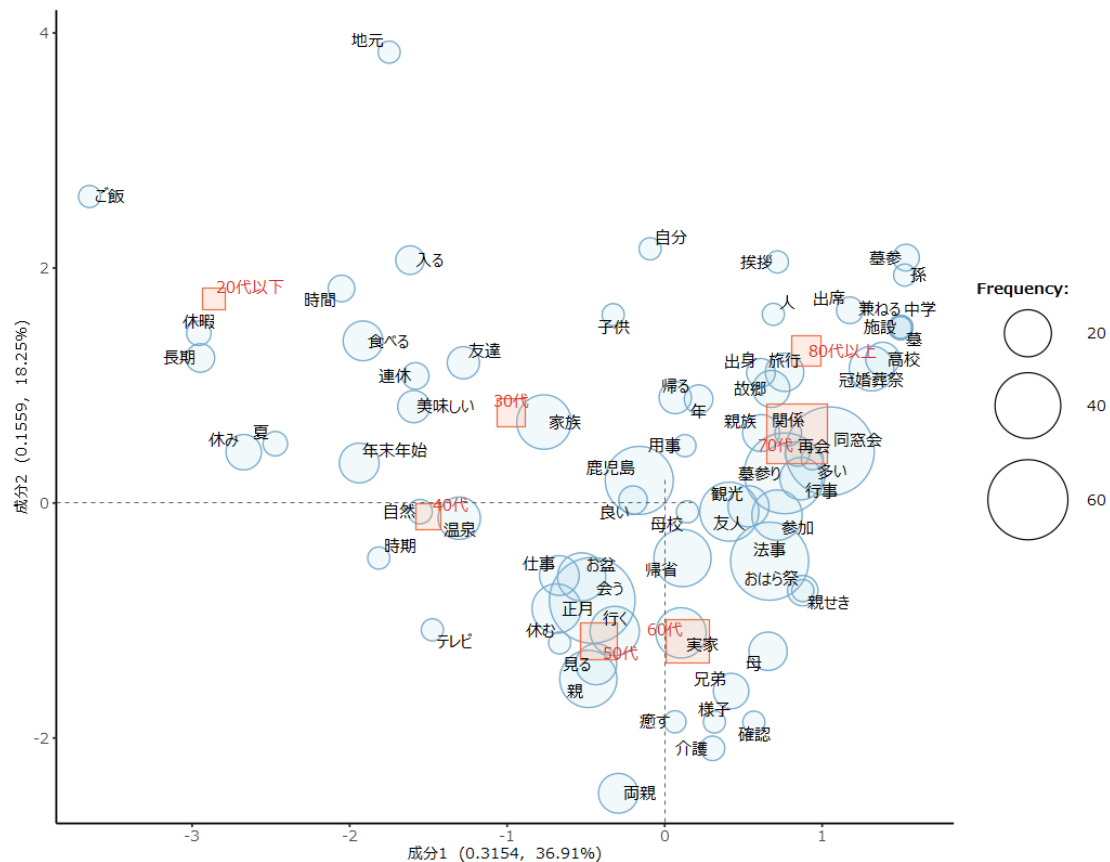


図 2 対応分析(回答内容×年代)：最小出現数 4、上位 70 文字

これらの結果を踏まえると時間経過に伴う特徴が見られる。つまり、若い時期から年を経るごとに、「娯楽→義務→娯楽」と心境が変化することだ。もし観光などのマーケティング戦略を考えるのであれば、年代ごとに訴求ポイントを変える必要があると示唆される。

次に図3に示すとおり「回答内容×居住地」を分析したい。こちらは大きく以下の4グループに分類できる。

- ① 関東グループ
- ② 関西・その他グループ
- ③ 九州(鹿児島以外)グループ
- ④ 九州(鹿児島)グループ

まず、「**関東グループ**」であるが、居住する人が最も多いグループであることもあり、観光、同窓会、墓参りなど、全体的に特筆すべき傾向は見られなかった。「**関西・その他グループ**」でも観光や行事に訪れたいといった意図が見える。一方、「**九州(鹿児島以外)グループ**」では、介護や親族の様子見といった回答者が見える。このことから、介護施設などに入所する親の様子を見に帰る人は、関東や関西といった遠隔地よりも、比較的鹿児島に近い地域に集中していると解釈できる。

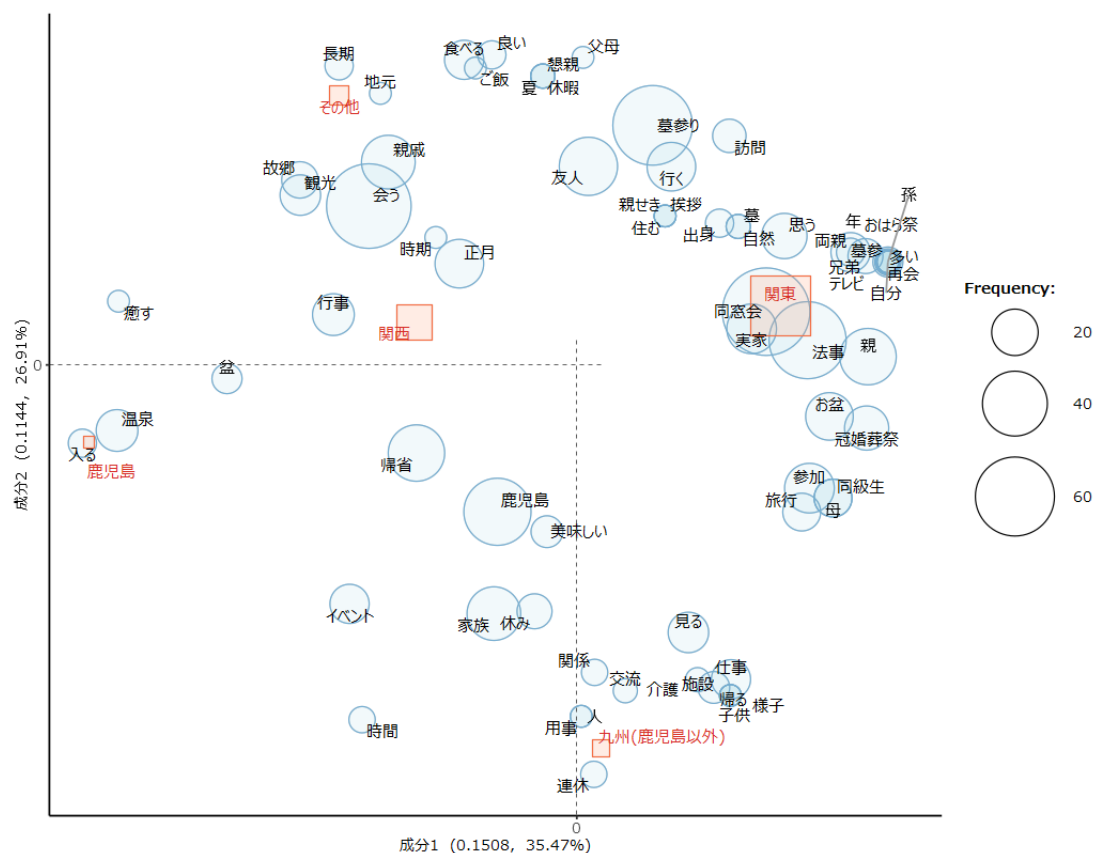


図3 対応分析(回答内容×居住地)：最小出現数4、上位70文字

最後に、「九州(鹿児島)グループ」では温泉などの近場の娯楽を楽しみたいとの意向が示された。この結果から、鹿児島に近いと家族の安否確認などの義務感で帰省したいと考える傾向が強いと推察される。

(イ) 問 14 及び問 12 「鹿児島県に今後、どのようにかかわっていきたいと考えていますか？自由にご意見をお書きください。」

まず全体的な回答概要は表 3 に示すとおり、回答意図では「応援(交流)」が全体の 23%であり最も多かった。回答としては、「県人会を通して郷里の町との交流と総連合会にかかわっていきたい。」などの県人会・同窓会などの郷里組織や各地での鹿児島県関連のイベントに参加したい旨の回答が多かった。次点は「帰省」が全体の 18%であった。やはり親や友人に会うために必要の都度、帰省したい旨の回答が多い。次に回答年代であるが、最も多いのは 70 代で全体の 30%を占めており、問 7 及び問 5 と同様に本調査の回答傾向も高年代の影響を大きく受けていることに留意しなければならない。居住地についても関東が 60%程度と最も多く、次に関西が 25%と続き、微細な違いはあるものの、問 7 及び問 5 とほぼ同じ回答傾向である。

表 3 回答概要(回答意図・年代・居住地：有効回答数 306 人)

回答意図	人数 (%)	年代	人数 (%)	居住地	人数 (%)
応援(購買)	28 (9%)	20 代以下	18 (6%)	関東	176 (58%)
応援(交流)	69 (23%)	30 代	22 (7%)	関西	78 (25%)
応援(その他)	24 (8%)	40 代	27 (9%)	九州(鹿児島他)	18 (6%)
観光	22 (7%)	50 代	46 (15%)	九州(鹿児島)	11 (4%)
帰省	56 (18%)	60 代	75 (25%)	その他	23 (8%)
仕事	26 (8%)	70 代	92 (30%)	-	-
宣伝	35 (11%)	80 代以上	26 (8%)	-	-
その他	46 (15%)	-	-		

それでは、問 14 及び問 12 のテキストマイニング分析に移りたい。共起ネットワークの結果を図 4 に示す。クラスターは全部で 17 クラスターに分類され、クラスター 05・09 以外は小規模な言葉の塊が、広範に連結する傾向が見られた。クラスター 01 では、それぞれの言葉の使用頻度は少ないものの、墓参りや踊り連、会合での関わりを深めたいとの回答意図が強く、個人の持つ信頼関係や地域での人間関係などを説明する社会関係資本の要素が強い回答群であると言える。次にクラスター 02 では、SNS などを活用して鹿児島をアピールしたいとの意図が表れている。クラスター 03 は、クラスター 01 をより狭めたもので、家族と会うことで活力を得たり、若しくは自分が活力を与えたいとの意

図が中心にあった。クラスター04では、時折の県外からの帰省によって、鹿児島に何らかの貢献をしたいとの回答群であった。

いずれのクラスターにおいても、回答者は「今後の鹿児島への関わり方」について、ポジティブな印象を持ち、個人としても、もっと多様な領域で貢献したいと考えている人が多かったことがうかがえる。例えば、大きな言葉の塊が連なるクラスター05では、「鹿児島」「帰省」「年」といった言葉が目立っており、年に数回の鹿児島への帰省を通じて関わりを持ちたいと考えている人が多いと読み取れる。その一方で、「思う」も大きな塊を形成しており、「年に一回くらいは、帰省したいと思う」などの願望が多い点が特徴である。これは、回答者が望郷の念を抱きつつも、「思う」のみでなかなか帰省が難しい状況があることを示唆している。

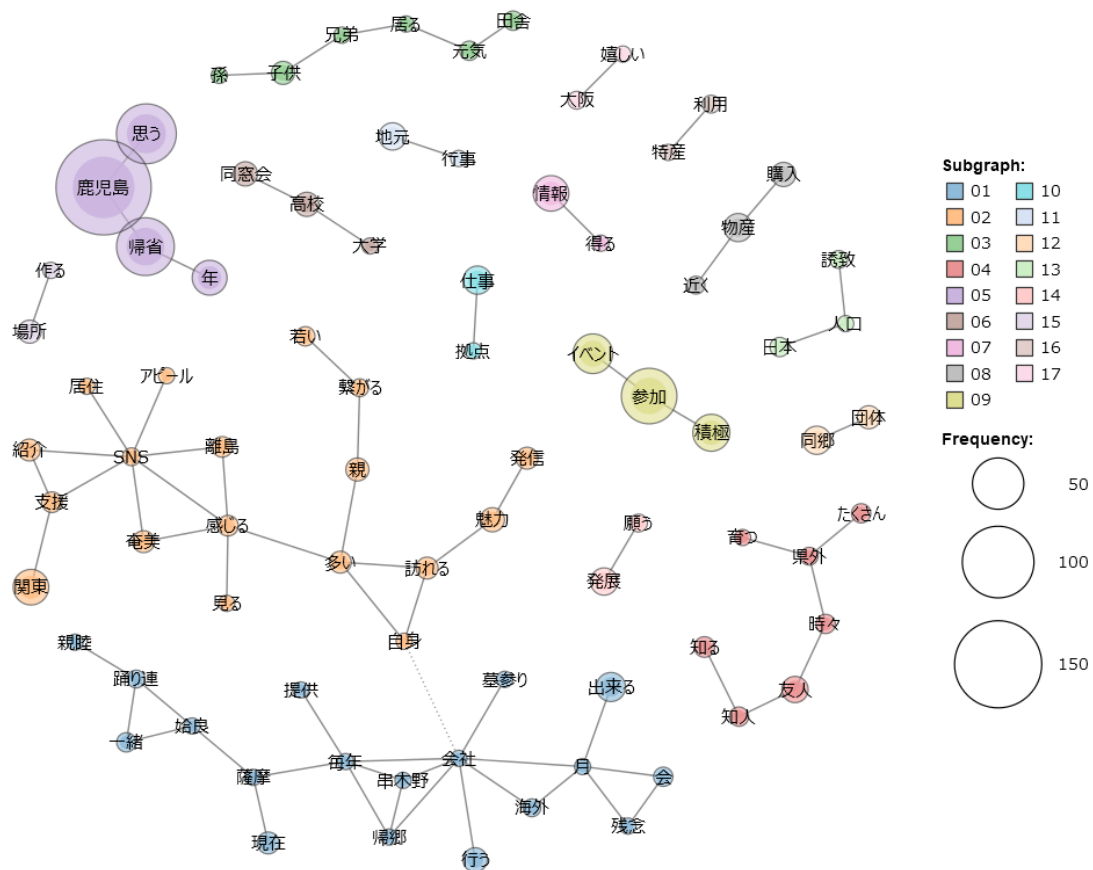


図4 共起ネットワーク：最小出現数4、上位70文字

続いて、対応分析から回答傾向を分析する。「回答内容×回答意図」「回答内容×年代」「回答内容×居住地」の3つの観点から検討を行った。

まず「回答内容×回答意図」を分析する(図5)。回答意図は表1に示したとおりである。最も特徴的なのは「応援(交流)」である。共起ネットワーク分析のとおり、県人会や

踊り連、同窓会などを通して交流を深めたいと考えている回答者が多かった。また「積極」という言葉の使用も多く、積極的に関わりを深めたいとの意図も見られる。「帰省」も特徴的であり、定期的に帰省で鹿児島と関わりと考えたい人も多いことが読み取れる。「帰省」に近い「観光」も含めて解釈すれば、「発信」も使われており旅行や帰省で鹿児島に赴く中で情報発信をしたい意図があることもうかがえる。今回、「宣伝」も回答意図に含めて分析しているが、「宣伝」は比較的原点に近く、周りに表出する言葉も少なかった。然るに単独での宣伝活動を実施したいというよりも、観光や仕事、関連イベントを通じて積極的に情報発信したいと考える人が多いことが示唆される。この点は、SNSを通じたマーケティング施策を検討する際には考慮すべき点である。また「応援(購買)」では、ふるさと納税はもちろん、観光した際にも物産品を購入したいとの意図が示されている。いずれも原点付近に言葉は少なく、それぞれの回答意図に沿った具体的な貢献をしたいと考えている傾向が強かった。

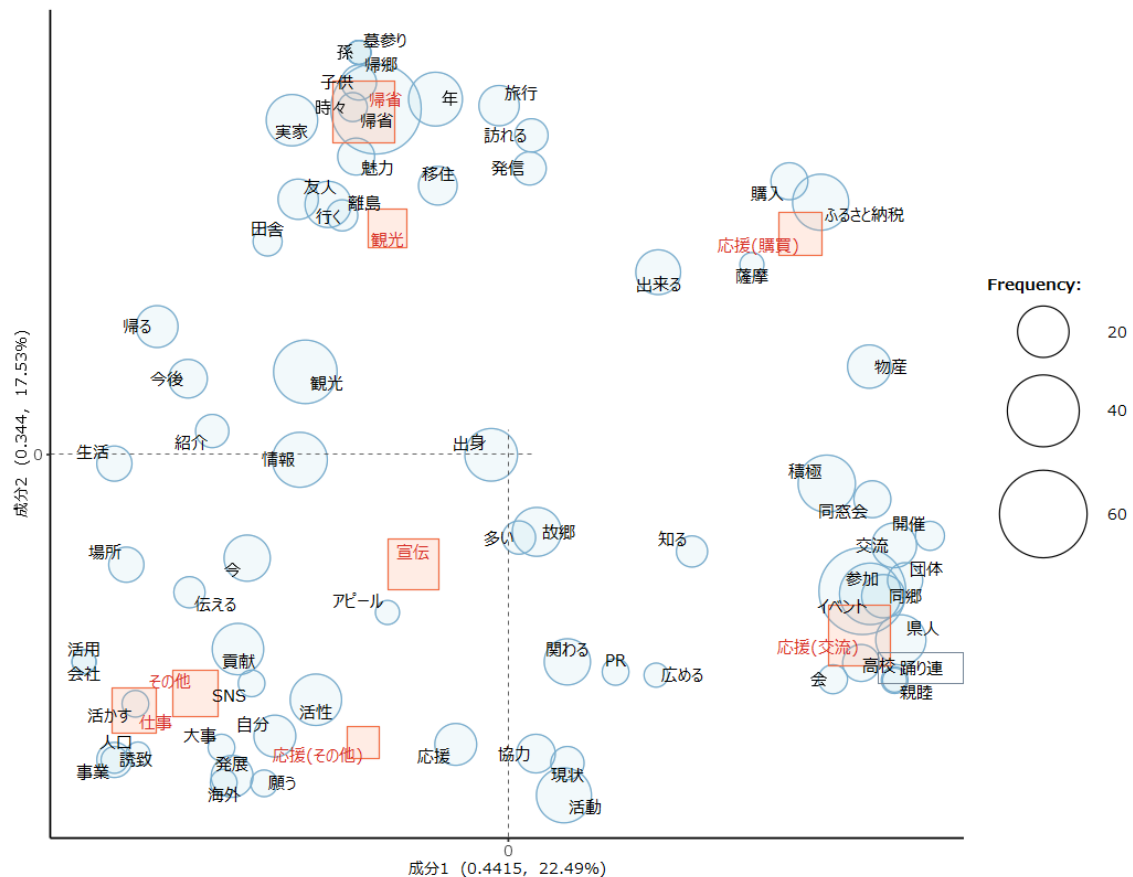


図5 対応分析(回答内容×回答意図)：最小出現数4、上位70文字

続いて「回答内容×年代」を分析する(図6)。こちらも「回答内容×回答意図」と同様に原点付近の言葉は少なく、それぞれの年代に応じて回答内容に特徴があり、以下のとおりに5つに分類できる。

- ① 70代グループ
- ② 30代～50代グループ
- ③ 60代グループ
- ④ 80代以上グループ
- ⑤ 20代以下グループ

まず最も目立つのは「70代グループ」である。このグループからは同窓会や近場のイベントを通じて鹿児島に関わりたいと考える人が多く、年に数回の帰省意向も示されている。また、情報発信を行いたい回答者も一定数存在した。「30代～50代グループ」では、何らかの貢献・支援がしたいと旺盛に考える人が多かった。やはり、年代のとおり活動が活発な時期であり、SNSでの発信や仕事、実家への帰省を通じて、アクティブに関わりたいとの意図が見られる。「60代グループ」では、踊り連への参加や、出身地への愛着を示す言葉が特徴的であり、居住地域のイベントに積極的に参加している姿がうかがえる。また“出身”との言葉も利用されており、郷土意識が高まる年代であるとも考えられる。「80代以上グループ」では、イベントや帰省を通じた関与よりも、鹿児島の発展を願う旨の回答が多かった。年齢的な要因、つまり健康や身体の問題から能動的な活動よりも、意見を発信することで貢献を望む傾向が示されている。ただし、この年代はSNSやインターネット利用は低いことも考えられ、何らかの形で意見を発信する場の提供が課題となっているのかもしれない。最後に「20代以下グループ」では、そもそも回答者数は少ないものの、帰省や観光への意欲が高く、**鹿児島の魅力を積極的に発信したいと考える回答者も多かった**。これは、昨今のSNS等のコミュニケーションツールを積極的に活用している姿があるとも考えられる。

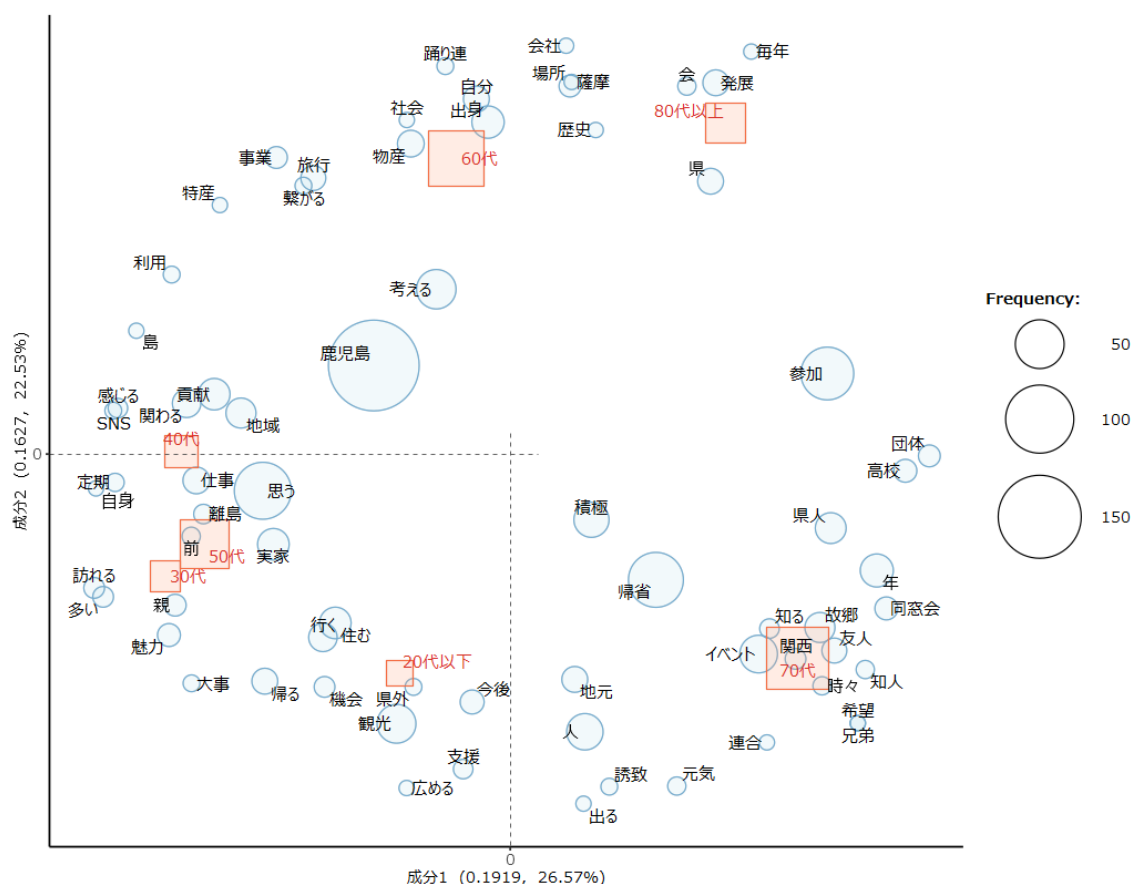


図 6 対応分析(回答内容×年代)：最小出現数 4、上位 70 文字

最後に「回答内容×居住地」を分析する(図 7)。こちらも「回答内容×回答意図」と同様に原点付近の言葉は少なく、大きく以下の 4 グループに分類できる。

- ① 関東グループ
- ② 関西グループ
- ③ 鹿児島以外の九州・その他グループ
- ④ 鹿児島グループ

まず最も大きな「**関東グループ**」であるが、このグループはあまり特徴ある言葉はなく、“購入”、“購買”、“出来る”、“考える”といった言葉は多かった。これは、**鹿児島**から地理的距離が影響し、旅行や帰省というよりも地場イベントなどを通じた購買活動で**鹿児島**に貢献したいと考える人が多いことが示唆される。「**関西グループ**」では、他と異なり県人会や同郷・同窓組織への積極的な参加意向が強く、地域的な結びつきが他の地域よりも強いことがうかがえる。県人会会員の居住人口は関東ほどではないものの、県人会関連などの組織化が際立った地域と考えられる。関西地区から**鹿児島**までは九州・山陽新幹線も直通していることから、**鹿児島**県に対するロイヤリティがそもそも高く、**鹿児島**の PR 活動を積極的に担う・担いたい層が一定数存在していると示唆される。

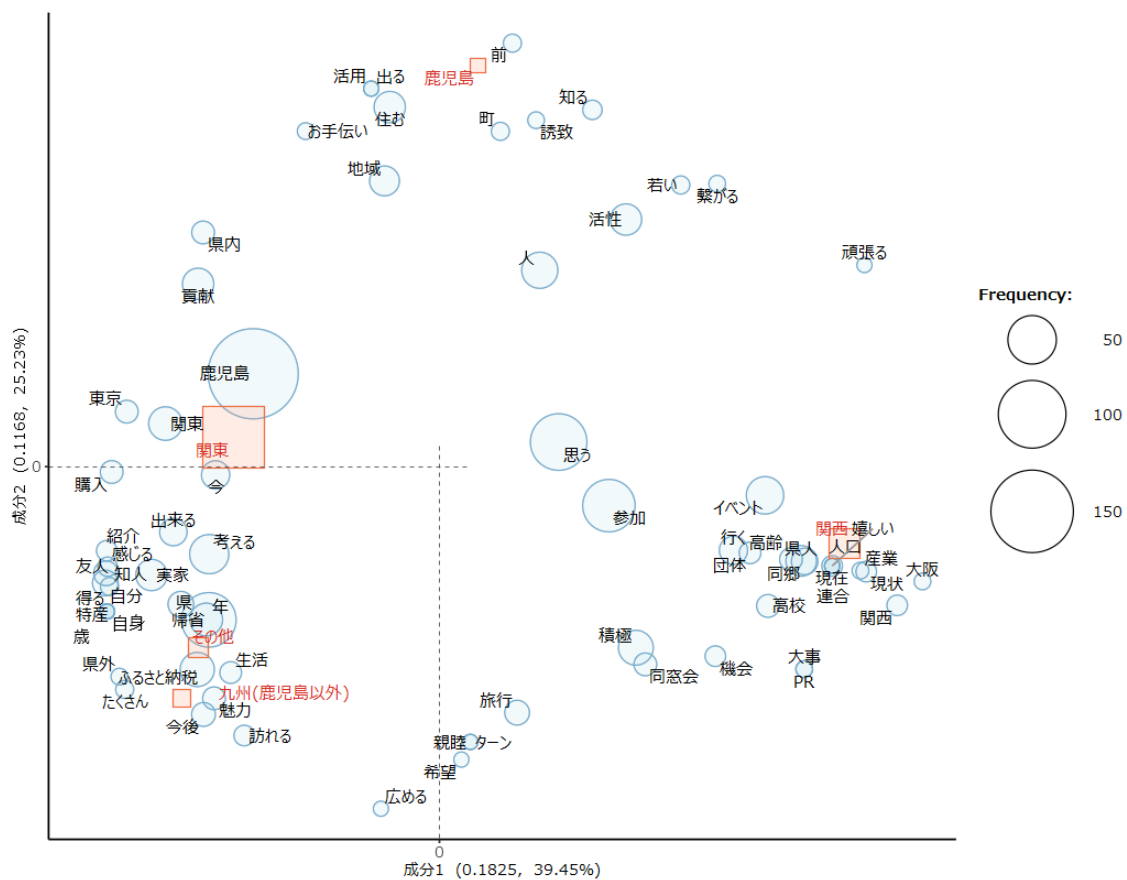


図 7 対応分析(回答内容×居住地)：最小出現数 4、上位 70 文字

「鹿児島以外の九州・その他グループ」であるが、このグループは帰省や旅行で訪れたいとする人が多い一方で、“ふるさと納税”との言葉が特徴的であった。一見、ふるさと納税は関東や関西といった大都市圏で回答が顕著になるのではないかと考えられるが、鹿児島に近い地域では日常的に鹿児島の情報が得やすく、訪れる機会も多いため、鹿児島への関心・ロイヤリティも他地域よりも高いと考えられる。それゆえ、ふるさと納税したいと考える回答者が目立つのかもしれない。最後に「鹿児島グループ」である。そもそも回答者が少ないグループであるが、居住地域への積極的な貢献意識が見られた。

6. まとめ

本分析では、「令和6年度関係人口創出・拡大県人会等調査」のうち、問7及び問5「鹿児島県に帰省や旅行をする、又はしたいと思うのはどのような時ですか」、問14及び問12「鹿児島県に今後、どのようにかかわっていきたいと考えていますか？自由にご意見をお書きください。」について、テキストマイニングの手法で分析した。分析に際しては、全体的な傾向を共起ネットワークで分析し、さらに対応分析によって「回答意図」「年代」「居住地」などによる回答傾向を確認した。

分析の結果、問7及び問5では鹿児島県に帰省や旅行したいと思うのは、一般的な帰省のイメージのように、長期休暇に家族や友人に会うためであることが読み取れた。ただし、年代ごとに心境の変化が見られ、世代を経るごとに「娯楽→義務→娯楽」と意識していることが示唆される結果を得た。また、地理的に鹿児島に近いほど、家族の安否確認などの義務感に応じて鹿児島を訪問したいと考えている傾向があることもわかった。

次に問14及び問12では、鹿児島への貢献について、ポジティブな印象を持ち回答していること、積極的に何らかの貢献を行いたいと考えていることが示唆される結果を得た。特に人的交流で積極的に応援したいと考えている人が多い可能性がある。また宣伝に関しても、宣伝を単独で行うのではなく、帰省や仕事、関連イベントを通して宣伝したいとの意図も見られた。年代を問わず鹿児島に貢献したいと考えている人は多かったが、年代に応じて貢献スタイルには差があり、現役世代である30代～50代が特に貢献意欲は高く、60代～70代で愛郷心が高まる傾向にあることも示唆される結果を得ている。

以上の分析からは関係人口創出に向けて鹿児島に積極貢献したいと考える人は一定数存在することが示唆される。ただし、鹿児島出身者に総花的、画一的にアプローチするのは効果的でも効率的でもなく、年代ごとに細やかにマーケティング戦略やプロモーション戦略を変える必要があることには留意が必要であろう。

以上